

2023年度 文学部聴講生

講義要項

(東洋史学専攻抜粋)

中央大学 文学部

2023.4 - 2024.3

目次

科目No	専攻	漢字科目名	教員氏名	学期名称	曜日名称	時限名称	ページ番号
E2201	東洋史学	東洋史概説(1)A(東洋史学)／東洋史概説A(東洋史学)	阿部 幸信	前期	水	5時限	3
E2202	東洋史学	東洋史概説(1)A(他専攻)／東洋史概説A(他専攻)	前島 佳孝	前期	水	2時限	6
E2203	東洋史学	東洋史概説(1)B(東洋史学)／東洋史概説B(東洋史学)	鈴木 恵美	後期	水	5時限	8
E2204	東洋史学	東洋史概説(1)B(他専攻)／東洋史概説B(他専攻)	前島 佳孝	後期	水	2時限	10
E2205	東洋史学	東洋史概説(2)A／アジア地域史(1)A	河野 敦史	前期	火	1時限	12
E2206	東洋史学	東洋史概説(2)B／アジア地域史(1)B	高橋 宏明	後期	火	1時限	15
E2207	東洋史学	史学概論	阿部 幸信	後期	金	5時限	18
E2208	東洋史学	東アジア古代史／東洋古代史B	莊 卓麟	後期	火	5時限	21
E2209	東洋史学	東アジア近世史／東洋近世史B	木村 拓	後期	火	2時限	24
E2210	東洋史学	東アジア近現代史／東洋近代史A	藤谷 浩悦	前期	月	1時限	26
E2211	東洋史学	東南アジア史／アジア地域史(4)A	高橋 宏明	前期	火	1時限	28
E2212	東洋史学	南アジア史／アジア地域史(4)B	嘉藤 慎作	後期	金	2時限	31
E2213	東洋史学	イスラーム前近代史／アジア地域史(3)A	末野 孝典	前期	水	2時限	34
E2214	東洋史学	イスラーム近現代史／アジア地域史(3)B	鈴木 恵美	後期	火	3時限	37
E2215	東洋史学	朝鮮史／東洋近世史A	木村 拓	前期	火	2時限	39
E2216	東洋史学	中央アジア史／東洋近代史B	植田 暁	後期	火	1時限	41
E2217	東洋史学	歴史地理学の方法／アジア地域史(2)A	植田 暁	前期	火	2時限	44
E2218	東洋史学	環境史の方法／アジア地域史(2)B	村松 弘一	後期	木	1時限	46
E2219	東洋史学	生活史・心性史の方法／東洋古代史A	莊 卓麟	前期	火	5時限	49
E2220	東洋史学	東洋美術史B／東洋史特論(2)B	神田 惟	後期	金	3時限	51
E2221	東洋史学	東洋考古学A／東洋史特論(3)A	長谷川 奏	前期	木	5時限	54
E2222	東洋史学	史料研究／東洋史特論(4)	松浦 史明	後期	木	3時限	57
E2223	東洋史学	アラビア語(1)A／アジア諸言語(1)(初級)A	松本 隆志	前期	月	2時限	59
E2224	東洋史学	アラビア語(1)B／アジア諸言語(1)(初級)B	松本 隆志	後期	月	2時限	62
E2225	東洋史学	アラビア語(2)A／アジア諸言語(1)(上級)A	鈴木 恵美	前期	水	4時限	65
E2226	東洋史学	アラビア語(2)B／アジア諸言語(1)(上級)B	鈴木 恵美	後期	水	4時限	67
E2227	東洋史学	アジア諸言語(1)A／アジア諸言語(2)(初級)A	伊澤 敦子	前期	木	2時限	69
E2228	東洋史学	アジア諸言語(1)B／アジア諸言語(2)(初級)B	伊澤 敦子	後期	木	2時限	71
E2229	東洋史学	アジア諸言語(2)A	フロレンティナ エリカ アユニングティアス	前期	金	4時限	73
E2230	東洋史学	アジア諸言語(2)B	フロレンティナ エリカ アユニングティアス	後期	金	4時限	76

科目名： 東洋史概説(1)A(東洋史学)／東洋史概説A(東洋史学)

担当教員： 阿部 幸信

履修年度： 2023 学期： 前期

開講曜日時限： 水5

配当年次： 1年次配当

科目ナンバー： LE-OH1-G101

登録者： DA1410admi 登録日時： 2022-10-28 09:39:00 更新者： AA0826

更新日時： 2022-12-14 12:18:46

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

一般に「東アジア」と呼ばれる空間を中心としたユーラシア東方地域（島嶼部を含む）の歴史について、通時的かつ包括的に述べます。

ユーラシア東方地域は、海陸が入りくんだ複雑な自然環境をもっています。それに応じて、この地に暮らす人々も多様な生業・生活様式を有し、お互いに接触と交流を繰り返してきました。そうしたユーラシア東方地域の歴史のなかに日本がどう位置づけられるのか、について考えていきます。本授業では後半な地域を扱いますが、よくある「各国史」の寄せ集めの体裁はとらず、ユーラシア東方地域を全体として捉えながら、その歴史展開を考えていきます。本授業をとおして、「いまこの地域の歴史がどのように研究されているのか」「歴史がいまを生き、未来を創るためになぜ必要か」を理解してください。

科目目的

ユーラシア東方地域の歴史の大まかな動きを把握すると同時に、「歴史から考える」ことの重要性についても学びます。

到達目標

1. ユーラシア東方地域の歴史的展開の概略を説明できる。
2. ユーラシア東方地域の歴史的展開が、世界史の中で占める位置について説明できる。
3. ユーラシア東方地域の歴史的展開の中で、日本が占める位置について説明できる。
4. 歴史をふまえて思考することの意義を理解し、説明できる。

授業計画と内容

1. 「ユーラシア東方地域」とは
2. ユーラシア東方地域の先史文化
3. 匈奴帝国・漢王朝と漢文化圏の出現
4. 二重の「南北朝」とユーラシア東方地域の結合
5. 唐帝国とユーラシア東方地域の三国時代
6. 「海の時代」の到来とユーラシア東方地域
7. モンゴル帝国と海陸の一体化
8. 大交易時代のユーラシア東方地域
9. ユーラシア東方地域の「近世」
10. アヘン戦争の衝撃と「世界の一体化」
11. ユーラシア東方地域における近代国家の成立
12. 二つの世界大戦とユーラシア東方地域
13. 現代のユーラシア東方地域
14. 総括・まとめ

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
授業終了後の課題提出
- ✓ その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

[予習]

各授業回の最後に、次の回で扱う内容を示します。それに従って高校世界史Bの教科書（あるいは参考書）の関連箇所を目を通してから、授業に臨んでください。

[復習]

各授業回において紹介される参考文献（「テキスト・参考文献」欄を参照）のうち、毎週任意の1冊（ないし1篇）に目を通し、理解を深めてください。

授業時間外の学修に必要な時間数／週

- ・毎週1回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。

・毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	100%	到達目標の達成度をはかる期末試験を行い、その成績に基づき評価します。
レポート	0%	
平常点	0%	
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL（課題解決型学習）
反転授業（教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式）
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
タブレット端末
その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

- [テキスト]
高等学校「世界史B」または「世界史探究」の教科書を用意してください。教科書会社は問いません。教科書の入手が困難な場合は、高校生向けの参考書でも構いません。
また、必要に応じて、授業中に資料を配付することがあります。
- [参考文献]
各授業回において、内容理解を深めるための参考文献を紹介します。

オフィスアワー

その他特記事項

質問は、基本的に授業終了後にその場で受け付けます。それ以外の時間を希望する人は、あらかじめ申し出て、アポイントをとってください。

参考URL

科目名： 東洋史概説(1)A(他専攻)／東洋史概説A(他専攻)
履修年度：2023 学期：前期 開講曜日時限：水2
科目ナンバー：LE-OH1-G101

担当教員： 前島 佳孝
配当年次：1年次配当

登録者：DA1410admi 登録日時：2022-10-28 09:39:00 更新者：AB5376 更新日時：2023-01-05 05:07:11

履修条件・関連科目等

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

授業の概要

東洋史学はおおよそアジア地域の歴史を扱うが、当該地域は極めて広大かつ多様で、長い歴史を有しているため、一講座で全てを包括することは困難である。そこで本講座では、中国を中心とする東アジアを軸として、周辺地域に目配りするかたちをとり、通年で古代文明の成立から現代までを概観する。このうち前期・東洋史概説Aでは先史時代から5世紀までを取り上げ、主に東アジアの中心を占める中国世界の形成や東・北アジアにおける地域ごとの文化圏の成立について講義する。

科目目的

中国をはじめとして東アジアの影響力が増大している現在、東アジア地域の歴史を知ることには社会的に大きな意味があり、翻って東アジアに含まれる日本の立ち位置を確認することにも繋がる。本講は「概説」として、古代を中心に東アジアおよびその周辺の歴史の基礎となる知識を習得し、あわせて普遍的な歴史事象の見方を自身の専門とする研究に応用する能力を養うことを目的とする。

到達目標

- ◇東アジア古代の政治史の展開を説明できるようになること。
- ◇古代における「中国」という地域の形成を説明できるようになること。
- ◇社会の変化のありかたを説明できるようになること。

授業計画と内容

1. ガイダンス
2. 「東洋」と「東洋史学」
3. 伝説と歴史と考古学
4. 古代文明の形成から都市国家連合体へ
5. 殷と周
6. 春秋戦国時代の社会変革
7. 秦漢帝国と統一中国の形成
8. 中国古代の地域社会
9. 外戚と宦官
10. 北アジア遊牧帝国の興衰
11. 王朝交替の様式化
12. 皇帝と宗室
13. 東・北アジアにおける民族の移動
14. 総括・まとめ：東アジア世界の形成

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと

授業終了後の課題提出

- ✓ その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業に先立ち、上記の参考文献や、最低限、高等学校の世界史教科書の当該箇所に通して、概要を把握しておくこと。講義後には参考文献を参照しながら講義内容の要旨をまとめること。講義で述べた事項を各自の専門とする時代や地域、テーマと比較して考えてみることも有益である。

授業時間外の学修に必要な時間数／週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験 0%

期末試験	80%	論述形式で、事実関係・因果関係の正確さ、記述の論理性等を評価する。
レポート	0%	
平常点	20%	受講態度、授業進行への貢献等を評価する。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

出席率が60%に満たない者は、試験の結果の如何に関わらず不合格とする。

課題や試験のフィードバック方法

授業時間内で講評・解説の時間を設ける

- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL (課題解決型学習)

反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)

ディスカッション、ディベート

グループワーク

プレゼンテーション

実習、フィールドワーク

その他

- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

クリッカー

タブレット端末

その他

- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

はい

- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキスト：manabaを介して講義内容を文章と図表にまとめた資料をpdf形式で配信する。

参考文献：尾形勇・岸本美緒編『世界各国史 中国史』（東京：山川出版社，1998年，ISBN:4634413302）、小松久男編『世界各国史 中央ユーラシア史』（東京：山川出版社，2000年，ISBN:463441340X）、松丸道雄等編『世界歴史大系 中国史』各巻（東京：山川出版社，1996年～）。また、授業中にも適宜紹介する。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名: 東洋史概説(1)B(東洋史学)／東洋史概説B(東洋史学) 担当教員: 鈴木 恵美
履修年度: 2023 学期: 後期 開講曜日時限: 水5 配当年次: 1年次配当
科目ナンバー: LE-OH1-G102
登録者: DA1410admi 登録日時: 2022-10-28 09:39:00 更新者: AA2229 更新日時: 2023-01-09 10:26:53

履修条件・関連科目等

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

授業の概要

西アジア(中東)史の概説を学ぶ。西アジアは、古代文明を基層とする厚みのある歴史を特徴とし、東西そして南北の交流が盛んな、多くの民族、宗教・宗派が共生する多様性に満ちた地域である。また、十字軍とモンゴルという東西からの侵略、様々な王朝の栄枯盛衰など、ダイナミズムに満ちている。この授業では、西洋や東洋とは異なる西アジア、イスラーム史の魅力を知ること、世界史を学ぶことの楽しさを知る。

科目目的

複雑で難しいと思われるがちな西アジア地域の歴史を学ぶことの面白さを知ること。またこの地域の歴史を、世界史全体のなかで理解すること。

到達目標

イスラーム史を学ぶことで、他の地域との違いと共通点を理解すること。授業で学ぶ歴史的知識と、現代の国際社会を結び付けてとらえること。

授業計画と内容

- 第1回 ガイダンス、イスラーム史の見方
- 第2回 イスラームの誕生
- 第3回 イスラーム支配地域の拡大
- 第4回 アッバース朝の統治
- 第5回 十字軍とモンゴル襲来
- 第6回 マムルーク朝とカイロの繁栄
- 第7回 ワクフとイスラーム都市
- 第8回 映像の視聴
- 第9回 セルジューク朝
- 第10回 オスマン朝の成立
- 第11回 オスマン朝の統治システム
- 第12回 サファヴィー朝の成立と繁栄
- 第13回 オスマン朝の衰退
- 第14回 イスラーム史総括

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

必ず授業の復習をすること。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

- 中間試験 0%
- 期末試験 85% イスラーム文明が歴史的にどのように展開してきたか、その理解度を評価する。
- レポート 0%
- 平常点 15% 質問やコメントペーパーの提出など、授業に対する積極性。

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)
- 反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
- いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキストは無し。参考文献は、必要な時には講義のなかで紹介する。
資料を準備する。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名： 東洋史概説(1)B(他専攻)／東洋史概説B(他専攻)
履修年度： 2023 学期： 後期 開講曜日時限： 水2
科目ナンバー： LE-OH1-G102

担当教員： 前島 佳孝
配当年次： 1年次配当

登録者： DA1410admi 登録日時： 2022-10-28 09:39:01 更新者： AB5376 更新日時： 2023-01-05 05:07:40

履修条件・関連科目等

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

授業の概要

東洋史学はおおよそアジア地域の歴史を扱うが、当該地域は極めて広大かつ多様で、長い歴史を有しているため、一講座で全てを包括することは困難である。そこで本講座では、中国を中心とする東アジアを軸として、周辺地域に目配りするかたちをとり、通年で古代文明の成立から現代までを概観する。このうち後期・東洋史概説Bでは5世紀以降を取り上げ、アジアの再構成、及び国際関係を中心に講義する。

科目目的

中国をはじめとして東アジアの影響力が増大している現在、東アジア地域の歴史を知ることには社会的に大きな意味があり、翻って東アジアに含まれる日本の立ち位置を確認することにも繋がる。本講は「概説」として、中世以降の東アジア及びその周辺の歴史の基礎となる知識を習得し、あわせて普遍的な歴史事象の見方を自身の専門とする研究に応用する能力を養うことを目的とする。

到達目標

- ◇東アジア中世以降の政治史の展開を説明できるようになること。
- ◇中国と周辺地域との関わりについて説明できるようになること。

授業計画と内容

1. ガイダンス
2. 暦の話(古代～現代)：太陰太陽暦とイスラム暦
3. 分裂時期中国の国際関係
4. 胡漢の融合
5. 隋唐世界帝国とその淵源
6. 東アジア都城通史(古代～現代)
7. ソグド人の活動
8. 日唐関係史の一齣
9. 唐宋変革
10. 科挙通史(6～20世紀)
11. モンゴル帝国とその末裔(12～20世紀)
12. 漢地と藩部
13. トルキスタンの成立と2つのウイグル(8～20世紀)
14. 総括・まとめ：東アジア世界の変容と周辺地域との関係

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと

授業終了後の課題提出

- ✓ その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業に先立ち、上記の参考文献や、最低限、高等学校の世界史教科書の当該箇所を目を通して、概要を把握しておくこと。講義後には参考文献を参照しながら講義内容を要旨をまとめること。講義で述べた事項を各自の専門とする時代や地域、テーマと比較して考えてみることも有益である。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験、期末試験、レポート、平常点、その他)

中間試験 0%

期末試験	80%	論述形式で、事実関係・因果関係の正確さ、記述の論理性等を評価する。
レポート	0%	
平常点	20%	受講態度、授業進行への貢献等を評価する。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

出席率が60%に満たない者は、試験の結果の如何に関わらず不合格とする。

課題や試験のフィードバック方法

授業時間内で講評・解説の時間を設ける

- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL (課題解決型学習)

反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)

ディスカッション、ディベート

グループワーク

プレゼンテーション

実習、フィールドワーク

その他

- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

クリッカー

タブレット端末

その他

- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
- いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキスト：manabaを介して講義内容を文章と図表にまとめた資料をpdf形式で配信する。

参考文献：尾形勇・岸本美緒編『世界各国史 中国史』（東京：山川出版社，1998年，ISBN:4634413302）、小松久男編『世界各国史 中央ユーラシア史』（東京：山川出版社，2000年，ISBN:463441340X）、松丸道雄等編『世界歴史大系 中国史』各巻（東京：山川出版社，1996年～）。また、授業中にも適宜紹介する。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名： 東洋史概説(2)A／アジア地域史(1)A

担当教員： 河野 敦史

履修年度： 2023 学期： 前期

開講曜日時限： 火1

配当年次： 1年次配当

科目ナンバー： LE-OH1-G103

登録者： DA1410admi 登録日時： 2022-10-28 09:39:01 更新者： AD1427

更新日時： 2023-01-06 19:51:22

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

古代から現代へと至る中央ユーラシアの歴史の基本的な流れを扱います。本授業で扱う中央ユーラシアの範囲については、西はヴォルガ・ウラル地域、東はモンゴル高原、北は南シベリア、南はチベット、西南はイラン北部、という領域を設定します。本授業において特に重視する具体的な事象としては、民族の移動、遊牧民とオアシスの定住民の関係、宗教や言語に関連する文化交流、いわゆる「シルクロード」を通じた交易活動があり、これらの諸事象に注目したうえで、中央ユーラシアにおいて活動した、あるいは現代においてもなお活動を続けている諸民族の政治、社会、文化の変容についても理解を深めていきます。

科目目的

この科目は、カリキュラム上の専攻科目群における必修科目として位置づけられており、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）で示されている「幅広い教養」を身に付け、また「専門的学識」を修得することを目的としています。この科目での学習を通じて、古代から現代へと至る中央ユーラシアの歴史の流れについて、基本的な知識を修得するとともに、ユーラシアにおける当該地域の位置づけや歴史的役割を視野に置きつつ、その歴史展開のあり方と具体的な諸事象を理解するための視点を養います。また、これらの知識と視点を修得することを通じて、現代の中央ユーラシアにおける諸民族が置かれた具体的な状況（政治、経済、社会、文化など）に関する理解を深めます。

到達目標

この科目では、以下を到達目標とします。

- ・中央ユーラシアの歴史の基本的な流れについて、他者に説明できるようになること。
- ・古代から現代までの中央ユーラシアにおける歴史の状況を、各時期ごとに具体的な事象を挙げて、他者に説明できるようになること。
- ・歴史的な視点および知識をもとに、現代の中央ユーラシアの状況について、広い視野を持って理解できるようになること。

授業計画と内容

基本的に講義形式で授業を行います。

- 第1回 ガイダンス : 中央ユーラシアの地域的特徴
- 第2回 草原とオアシス：シルクロード
- 第3回 スキタイと匈奴：遊牧民とその政権
- 第4回 テュルクの展開：テュルク系遊牧諸部族の活動および西方への移動
- 第5回 ソグディアナ地域：ソグド人の住む地域と彼らの商業活動
- 第6回 タリム盆地周縁オアシス地域：オアシスの諸国と周辺勢力
- 第7回 イスラーム化：スーフィー教団と聖者の活動を中心として
- 第8回 テュルク化：テュルク系遊牧民の定住化とオアシス地域のテュルク化
- 第9回 モンゴル帝国：チンギス・ハーンとその後裔たち
- 第10回 ティムール帝国：ティムールとその後裔たち
- 第11回 清朝の進出と統治：ジュン=ガルの滅亡と新疆統治
- 第12回 ロシア帝国の進出と統治：諸ハン国の滅亡とトルキスタン総督府の設置
- 第13回 近現代の中央ユーラシア：民族と自治と文化
- 第14回 総括・まとめ : 中央ユーラシアの歴史と現代

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

- ・特定のテキストは使用しませんが、授業中に紹介する参考文献に目を通すことを推奨します。
- ・毎回の授業において、授業内容に関する課題を出すので、400字程度の小レポートを提出してください。小レポートの回収は、responのアンケート機能もしくはmanabaのレポート機能によって行なう予定です。

授業時間外の学修に必要な時間数／週

- ・毎週1回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	0%	
レポート	30%	学期末の課題レポート（1800字以上2200字以内）の内容について評価します。設定された文字数の中で、具体的な事象を他者に説明できることを重視するので、1800字を下回る場合、また2200字を上回る場合も同様に減点します。
平常点	70%	授業への参加状況、毎回の小レポートの提出状況および内容について評価します。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

毎回の授業においてResponアプリのカード（出席のみ）を使って、出席を確認する予定です。各授業ごとに出席を確認できた学生の提出した小レポートを評価の対象とします。正当な理由なく欠席した場合は、その欠席した回の小レポートを提出することはできません。

課題を提出しない者については、E判定とします。小レポートを正当な理由なく4回以上提出しなかった者、学期末の課題レポートを提出しなかった者は評価の対象とせず、E判定とします。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

- ・毎回の授業において、授業内容に関する課題を出します。課題に対して提出された小レポートの内容に応じて、講評と解説を行います。
- ・学期末の課題レポートの内容に応じて、個別にコメントを行います。

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL（課題解決型学習）
 反転授業（教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式）
 ディスカッション、ディベート
 グループワーク
 プレゼンテーション
 実習、フィールドワーク
 その他

- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

クリッカー
 タブレット端末
 その他

- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
- いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

<テキスト>
 テキストは使用しません。各回の授業内容に関するレジュメを配布します。

<参考文献>

参考文献については授業時にも紹介しますが、本授業における主な参考文献としては以下のものがあります。

- ・小松久男編『中央ユーラシア史』山川出版社、2000年（新版世界各国史4）ISBN：4-634-41340-X
- ・小松久男、梅村坦、宇山智彦、帯谷知可、堀川徹編『中央ユーラシアを知る事典』平凡社、2005年 ISBN：4-582-12636-7
- ・小松久男、荒川正晴、岡洋樹編『中央ユーラシア史研究入門』山川出版社、2018年 ISBN：978-4-634-64087-0
- ・野田仁、小松久男編著『近代中央ユーラシアの眺望』山川出版社、2019年 ISBN：978-4-634-67249-9

オフィスアワー

その他特記事項

毎回の授業において出す課題の小レポートについて、学生の負担が重い、課題が多い等の事情を考慮する必要性が生じた場合は、課題字数の調整、また授業時間内において担当教員に質問して作業できる時間を設ける等の対応を行いません。

参考URL

備考

科目名: 東洋史概説(2)B/アジア地域史(1)B

担当教員: 高橋 宏明

履修年度: 2023 学期: 後期

開講曜日時限: 火1

配当年次: 1年次配当

科目ナンバー: LE-OH1-G104

登録者: DA1410admi 登録日時: 2022-10-28 09:39:01 更新者: AA1729

更新日時: 2023-01-08 21:00:54

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

本授業では、東アジア・東南アジアからインド洋・アラビア半島・アフリカにかけての海域世界の歴史的展開に焦点をあてつつ、国家史の枠組みを越えた東西交流の歴史と物質文明、内陸地域との交易ネットワークの形成、海域史の特徴等について学習します。

科目目的

本科目の学習を通じて、東アジア・東南アジアからインド洋・アラビア半島・アフリカにかけての海域世界の歴史と文化に対する理解を深めるとともに、当該地域の歴史、社会、文化についての基礎的な知識や幅広い教養を修得することを目的としています。

到達目標

本科目では、東アジア・東南アジアからインド洋・アラビア半島・アフリカにかけての海域世界の歴史や文化について理解し、東西交流の歴史的な意義、海域世界の交流史や宗教の展開などについて、他者に説明できるようになることを到達目標とします

授業計画と内容

- 第1回 はじめにー海域世界と東西交流の歴史ー
- 第2回 紀元前後の「海のシルクロード」
- 第3回 古代東南アジアにおける「港市」の成立と国家形成
- 第4回 8～9世紀におけるアジア海上交易ネットワークの発展
- 第5回 10～12世紀のイスラーム世界の拡大
- 第6回 イスラーム=ネットワークの形成と海上交易の活性化
- 第7回 明の国際秩序とアジア海域ー鄭和の遠征、銀の流通ー
- 第8回 15世紀のアジア交易ーインド洋交易、アラビア商人、マラッカ王国ー
- 第9回 大航海時代の開始①インド洋貿易ネットワークの発展
- 第10回 大航海時代の開始②ヨーロッパ人のアジア進出
- 第11回 16世紀近代世界システムの成立①ヨーロッパ人の世界「進出」
- 第12回 16世紀近代世界システムの成立②アジア地域とヨーロッパ人の活動
- 第13回 17～18世紀の東南アジア世界への中国人の進出
- 第14回 まとめと総括

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

- | | | |
|------|-----|--|
| 中間試験 | 0% | |
| 期末試験 | 40% | 海域世界の歴史と文化についての基礎知識を理解した上で、授業内容に関する設問に対して説明できるかどうかを評価します。 |
| レポート | 30% | レポートの基本構成、字数、形式、参考文献等の基本的な条件を理解した上で、授業内容に関する課題に対してレポート作成できるかどうかを評価します。 |

平常点	30%	リアクションペーパーの内容、受講態度（意見の表明、他の学生と協調して学ぶ態度・姿勢等）を基準とします。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

評価の前提条件：出席率が70%に満たない者、課題を提出しない者等については、E判定とします。リアクションペーパーの内容が中身のないものであった場合、その回の平常点が大きく減点されますので留意する必要があります。また、部活動や就職活動等で出席できない場合でも、「特別扱い」はしないので注意してください。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL（課題解決型学習）
- ✓ 反転授業（教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式）
- ✓ ディスカッション、ディベート
- ✓ グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- ✓ タブレット端末
- その他
- 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
- いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

1992年4月～1995年3月にかけて外務省・在カンボジア日本大使館に勤務し、広報政策や文化協力、国費留学生事業を担当しました。カンボジア政府や国際機関（国連カンボジア暫定統治機構、ユネスコ、その他）との折衝等の外交活動に従事し、特にアンコール遺跡国際調整委員会（ICC）の設立・運営に直接関与した実務経験を持っています。

実務経験に関連する授業内容

外交関連の文書等の作成に関与した経験を活かし、同書類の特徴や性質についての解説・講義を実施します。

テキスト・参考文献等

「テキスト」は、特に使用しません。毎回、授業の際に関連資料を配布します。

- 「参考文献」として、以下をあげておきますので、適宜参照してください。
- ・青木康征『海の道と東西の出会い』山川出版社(世界史リブレット)、1998年。
 - ・桐山昇・栗原浩英・根本敬『東南アジアの歴史—人・物・文化の交流史—』有斐閣、2003年。
 - ・羽田正編『東アジア海域に漕ぎだす1—海からみた歴史—』東京大学出版会、2013年。
 - ・桃木至朗編『海域アジア史研究入門』岩波書店、2008年。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名： 史学概論**担当教員： 阿部 幸信**

履修年度：2023 学期：後期

開講曜日時限： 金5

配当年次：2年次配当

科目ナンバー：LE-HT2-G108

登録者：DA1410admi 登録日時：2022-10-28 09:39:03 更新者：AA0826

更新日時：2022-12-14 12:20:01

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

歴史とは何か。この問いは、歴史学という学問に固有な特徴や考えかた・手法、あるいは歴史学の存在意義と、密接にかかわっています。この壮大な問いに明確な解答を与えることは困難ですが、授業中で紹介されるさまざまな考えかたやエピソードをもとに、いまの自分なりの結論を出してください。それが、「歴史的に思考する」ことの第一歩です。この授業は、その入り口までみなさんをご案内するためのものです。

科目目的

「歴史とは何か」「歴史学とは何か」について考えます。

到達目標

1. 歴史学の学問としての性格と今日的意義について説明できる。
2. 歴史学を研究するうえで必要とされる技術について説明できる。
3. 歴史とは何であるかについて、この授業における結論を理解し、説明できる。
4. 歴史の中で生きることの意味について、この問題に関するさまざまな議論をふまえて、自分の見解を説明できる。

授業計画と内容

1. クリオのひざもとへ——『ふたつのスピカ』と裁かれるゾウムシと新藤兼人——
2. 創られる伝統——染井霊園と飛梅とビッグ・ベン——
3. 歴史のもつ力——ソークラテースと「からすの勝手でしょ」と組体操——
4. 史料の時代性——水戸黄門と孔明の涙と蜀漢正統論——
5. 歴史的制約——存在被拘束性と有村昆とパンチラ——
6. 歴史は繰り返すか——「阿部一族」と春秋の筆法と配牌の神秘——
7. 時間の実在をめぐって——ヘーゲルと相対性理論と近代歴史学——
8. 「真実らしい過去」——モツレクと目覚まし時計と戦国自衛隊——
9. 歴史を「語る」——エコーチェンバーとホワイトと「歴史への真摯さ」——
10. 死者との共生・共存・共闘——ジニと「過ぎゆかぬ時間」と『夜と霧』——
11. 「天道、是か非か」——「群衆の比喩」とアンパンマンと鯉の滝登り——
12. 歴史は人間が創る——紀伝体と「巖穴の土」とDr. ヒルルク——
13. 歴史とは何か——ペロポネソス戦争と「死者による支配」と『冬の惑星』——
14. 総括・まとめ

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
授業終了後の課題提出
- ✓ その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

[予習]

各授業回の最後に提示された参考文献(または作品)を必ず読んで(あるいは観て・聴いて)から、次の回の授業に臨んでください。その際、内容はもちろん、「なぜこの文献(作品)が課題として指定されたのか」について熟考するようにしてください。そこに授業理解のためのヒントがあります。

[復習]

各授業回の中で提示される関連文献(または作品。ただし、予習のためのものは除く)のうち、毎回最低1点を読んで(あるいは観て・聴いて)、授業内容について理解を深めてください。また、授業中に指示された課題に必ず取り組んでください。この授業は情報量がきわめて膨大なため、復習を怠るとすぐについていけなくなります。決しておろそかにしないでください。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	100%	到達目標の達成度をはかる期末試験を行い、その成績に基づき評価します。
レポート	0%	
平常点	0%	
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL（課題解決型学習）
反転授業（教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式）
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
- ✓ 実習、フィールドワーク
その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
タブレット端末
その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

- [テキスト]
固定したテキストは用いません。必要に応じて、manabaにて資料を配付します。
- [参考文献・作品]
各授業回の最後に、その次の回で扱う予定の参考文献（または作品）のうち、重要なものを提示します。

オフィスアワー

その他特記事項

質問は、基本的に授業終了後にその場で受け付けます。それ以外の時間を希望する人は、あらかじめ申し出て、アポイントをとってください。

参考URL

科目名： 東アジア古代史／東洋古代史B

担当教員： 莊 卓熾

履修年度： 2023 学期： 後期

開講曜日時限： 火5

配当年次： 2～4年次配当

科目ナンバー： LE-OH2-G201

登録者： DA1410admi 登録日時： 2022-10-28 09:40:41 更新者： AD1435

更新日時： 2023-01-06 22:16:35

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

本講義は、古代中国の裁判記録を読み、当時の役人たちが直面した数々の難事件を紐解く。

古代中国の為政者は、広範囲の領土を効率よく支配するため、律令の整備を積極的に進めていた。しかし律文の大部分が散佚しており、中国史の基本史料である『史記』『漢書』には断片的な記載しか残っていない。ところが20世紀初頭以来、竹簡や木簡といった出土文字資料が全国各地から発見され、秦漢時代の律令規定が徐々に明らかになってきた。出土文字資料のなかで、『嶽麓書院藏秦簡』と『張家山漢簡』に「奏讞書」と題された一連の簡がある。これは秦漢時代の裁判において、地方では論断を下しがたい案件を中央に上申した裁判記録の覚書である。本講義では、これらの裁判記録を紹介・解説し、「奏讞書」に記録された難事件の数々を通じて、古代中国社会の実態について理解を深める。

科目目的

本講義の主な目的は古代の裁判記録を読み、一般庶民の日常および非日常を知り、当時の中国社会について理解を深めることである。

到達目標

- この科目では、以下を到達目標とする。
- ・古代中国の裁判手続や特徴について理解すること。
 - ・出土文字資料の性質や意義について理解すること。
 - ・本授業で学んだことを、自身の専門とする研究に応用できるようになること。

授業計画と内容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 古代中国史研究と出土文字資料
- 第3回 古代中国の「奏讞」
- 第4回 『嶽麓』 案例〇一を読む
- 第5回 『嶽麓』 案例〇二を読む
- 第6回 『嶽麓』 案例〇三を読む
- 第7回 『嶽麓』 案例〇四を読む
- 第8回 『嶽麓』 案例〇七を読む
- 第9回 『嶽麓』 案例一四を読む
- 第10回 『張家山』 案例一六を読む
- 第11回 『張家山』 案例一七を読む
- 第12回 『張家山』 案例一八を読む
- 第13回 『張家山』 案例二二を読む
- 第14回 総括

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	0%	
レポート	70%	学期末に、授業内容と関連するレポートを課し、評価をつけます。
平常点	30%	授業時の取り組み、特に毎回配布するリアクションペーパー（授業内容のまとめや理解度確認の項目を設定することがあります）によって評価します。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

出席回数が全授業回数の80%未満の場合は、成績評価の対象となりません。

課題や試験のフィードバック方法

授業時間内で講評・解説の時間を設ける

- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

毎回のリアクションペーパーは、manaba上でフィードバックを行います。

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL（課題解決型学習）

反転授業（教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式）

ディスカッション、ディベート

グループワーク

プレゼンテーション

実習、フィールドワーク

その他

- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

クリッカー

タブレット端末

その他

- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

<テキスト>

- ・『嶽麓書院蔵秦簡（参）』（上海辞書出版社、2013年）
- ・『二年律令与奏讞書』（上海古籍出版社、2007年）

<参考文献>

授業の中で適宜紹介する。全体に関連する概説書および訳本として、次のものがある。

- ・池田雄一編『漢代を遡る奏讞：中国古代の裁判記録』（汲古書院、2015年）
- ・陶安あんど「嶽麓秦簡司法文書集成『為獄等状等四種』訳注稿」（『法史学研究会会報』17号～23号、2013年～2020年）
- ・専修大学『二年律令』研究会「嶽麓書院蔵秦簡（参）訳注」（『専修史学』59号～70号、2015年～2021年）

オフィスアワー

その他特記事項

- ・毎回リアクションペーパーを提出する（オンライン授業の場合は、manabaのレポート機能かアンケート機能を活用する）。
- ・受講者の状況、希望に応じて、授業の一部の内容や形式を変更することもある。
- ・本講義は史料の精読ではなく、内容を理解することに力点を置くため、受講者の漢文の読解力は求めない。

参考URL

備考

科目名： 東アジア近世史／東洋近世史B**担当教員： 木村 拓**

履修年度：2023 学期：後期

開講曜日時限： 火2

配当年次：2～4年次配当

科目ナンバー：LE-OH2-G203

登録者：DA1410admi 登録日時：2022-10-28 09:40:41 更新者：XEA302

更新日時：2023-01-08 10:07:45

履修条件・関連科目等

朝鮮史（東洋近世史A）を併せて履修することが望ましい。

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

今では「東アジア」という言葉は、学界ではもちろんのこと、その他の様々な場で耳にすることが多くなっています。しかし「東アジア」の範囲はどこまでか、あるいはどうして「東アジア」という括りを使うのか、といった問いを投げかけられたとき、明快な説明を用意することはなかなか難しいものです。本講義では、そのような問題意識の下、「東アジア」という概念を検証するという大目的を意識しつつ、明清時代の国際関係の推移と特質を考えていきます。その際、それを具体的に考えるための歴史的事象として、明・清と高麗・朝鮮との関係を集中的に取り上げます。

科目目的

この科目での学習を通じて、中国（明・清）とその周辺諸国との関係史を学び、「東アジア」についての理解を深めます。

到達目標

- 以下の二点を大きな到達目標とします。
- ・明清時代の国際関係の推移と特質を理解する。
 - ・「東アジア」概念に関する多角的な理解を獲得する。

授業計画と内容

1. ガイダンス：東アジア世界論をめぐる諸問題
2. 明の成立と東アジア
3. 明の成立と高麗
4. 明の対外政策の展開
5. 明の対外政策と朝鮮
6. 16世紀の東アジア国際関係の特質
7. 16世紀の東アジア国際関係と朝鮮
8. 壬辰戦争：秀吉の朝鮮侵攻と東アジア
9. 明清交替と東アジア
10. 明清交替と朝鮮
11. 清の支配体制の確立
12. 清と周辺諸国の国際関係
13. 東アジア国際秩序と近代：朝鮮の位置づけをめぐって
14. 総括：東アジア世界論の現在

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**授業時間外の学修に必要な時間数／週**

- ・毎週1回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

- | | |
|------|--|
| 中間試験 | 0% |
| 期末試験 | 0% |
| レポート | 70% 期末レポートに当たります。課題の内容については、授業中に説明します。 |

平常点 30% 授業への参加状況、毎回の小レポートの提出状況および内容について評価します。
その他 0%

成績評価の方法・基準(備考)

期末レポート及び小レポートの詳細については、授業開始後、授業で説明します。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

毎回の授業において、授業内容に関する小レポート書いてもらいます。提出された小レポートの内容に応じて、授業中に講評と解説を行います。

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)
- 反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- ✓ タブレット端末
その他
実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

<テキスト>
テキストは使用しません。各回の授業内容に関するレジュメを配布します。
<参考文献>
李成市『東アジア文化圏の形成(世界史リブレット7)』山川出版社、2000年)
茂木敏夫『変容する近代東アジアの国際秩序(世界史リブレット41)』(山川出版社、1997年)

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名: 東アジア近現代史／東洋近代史A

担当教員: 藤谷 浩悦

履修年度: 2023 学期: 前期

開講曜日時限: 月1

配当年次: 2～4年次配当

科目ナンバー: LE-OH2-G204

登録者: DA1410admi 登録日時: 2022-10-28 09:40:41 更新者: AB4883

更新日時: 2022-12-18 14:43:57

履修条件・関連科目等

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

授業の概要

本講義では、東アジア近代の歴史的事象について、中国と日本の文化の交流と摩擦というテーマに即しながら、髪型や衣装、身体観、病氣、都市、宗教などを中心に、多角的な観点から取り上げます。

科目目的

現在、大学生にはグローバル化の時代にあつて、多角的な観点、幅広い教養、柔軟な思考が求められています。本講義では、学生が歴史を考える上で必要となる、基本的な考え方、知識の習得を目指します。この科目は教養科目になります。

到達目標

- この科目では、以下を到達目標とします。
- ・東アジアの近代に現れた、政治、社会、文化の諸現象について、この背景や原因、意義を含めて、他者に説明できるようになること。
 - ・これらの諸現象に関する課題を、多角的な視点から考察できるようになること。
 - ・レポートの作成を通じて、自分の意見をまとめ、表現できるようになること。

授業計画と内容

1. 授業の目的
2. 髪型の意味 (辮髪、丁髷など)
3. 「身体の加工」の歴史 (コルセット、纏足、お歯黒、眉剃り)
4. 身体観の推移 (風姿、体型)
5. 東アジアの衣装と身体 (旗袍、着物、チマ・チョゴリ)
6. しぐさと言葉、身分
7. 身体観の推移 (シャネルの意義、シンプルとは何か)
8. 中間総括
9. 香りの文化
10. 資生堂の戦略 (憧れと広告)
11. 近代の香水の展開
12. チャイナ・ドレスの多様性 (旗袍と唐服、漢服)
13. 20世紀の意識革命 (モダン、シック、エレガンス、崩し、反抗)
14. 新たな価値の方向性 (多様性とジェンダー)
15. 最終総括

manabaを用いて、毎回講義の内容のまとめを行っています。このまとめによって、次回の講義とのつながりが確認できるようになっています。また、講義内容の不明点についても、解説をしています。

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと

- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

毎回の授業で、資料と共に課題を提示します。この資料を読み込み、教員の指示した内容に沿って、レポートを書いていただきます。教員はこのレポートを読み、個々の学生に対して、コメントと共に今後の学習の方向性を示します。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験、期末試験、レポート、平常点、その他)

中間試験	0%	
期末試験	0%	
レポート	50%	レポートを読み、課題への取り組み方、達成度を評価します。
平常点	50%	レポートの提出状況の評価します。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

フィードバックは、manabaを用いて、各レポートに対する教員の感想、意見と共に、今後の学習の方向性、参考図書などを提示する形で行います。

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)
- 反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

(テキスト) テキストは特になし。
 (参考文献) 藤谷浩悦『井上雅二と秀の青春 (一八九四―一九〇三) ―明治時代のアジア主義と女子教育―』(集広舎、2019年)

オフィスアワー

その他特記事項

歴史だけでなく、文学、哲学など、人文系の学問を幅広く履修してください。

参考URL

備考

科目名： 東南アジア史／アジア地域史(4)A**担当教員： 高橋 宏明**

履修年度：2023 学期：前期

開講曜日時限： 火1

配当年次：2～4年次配当

科目ナンバー：LE-OH2-G205

登録者：DA1410admi 登録日時：2022-10-28 09:40:41 更新者：AA1729

更新日時：2023-01-08 20:25:00

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

本授業では、東南アジア大陸部、特にカンボジアを中心としたインドシナ半島の現代史を中心に、歴史的な流れとその捉え方や考え方、政治、社会、国際関係などについて、外交文書の読解と分析を通じて講義します。現代カンボジアの形成過程と対外関係を、主に日本等の外交文書を読み解きながら、授業を進めます。

科目目的

本科目の学習を通じて、学生が現代のインドシナ世界の成り立ち・歴史・文化に対する認識を深めるとともに、現代日本とインドシナ地域（特にカンボジア、ベトナム）の政治的・歴史的な関係について理解し、専門的な学識と幅広い教養を修得することを目的としています。

到達目標

本科目では、現代のインドシナ地域（特にカンボジアとベトナム）について、インドシナ難民問題の実態、国際社会の関与、日本外交の果たした役割などを理解し、他者に説明できるようになることを到達目標とします。

授業計画と内容

20世紀後半のカンボジア「問題」に関し、政治情勢、社会状況、対外関係の実態について、外交文書を読解しながら多角的に分析します。参考文献も適宜参照しながら、以下のテーマで講義を進めます。

- 第1回 ガイダンス～インドシナ地域を学ぶ意味について～
- 第2回 大航海時代のカンボジアと日本
- 第3回 フランス領インドシナ連邦（仏印）と日本の関係
- 第4回 カンボジアの「独立」と日本軍
- 第5回 ベトナム戦争からカンボジア「内戦」へ
- 第6回 クメール・ルーージュのジェノサイド（大虐殺）
- 第7回 カンボジア「問題」の発生
- 第8回 日本の関与①～インドシナ難民と日本～
- 第9回 日本の関与②～外交文書の読解と分析～
- 第10回 日本の関与③～外交文書から見た「和平」への道のり～
- 第11回 日本の関与④～外交文書の中の政治アクター～
- 第12回 日本の関与⑤～1989～1990年の動向分析～
- 第13回 日本の関与⑥～冷戦終結と湾岸戦争とカンボジア「和平」～
- 第14回 まとめと総括～カンボジアPKOと日本～

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験、期末試験、レポート、平常点、その他)

- | | | |
|------|-----|--|
| 中間試験 | 0% | |
| 期末試験 | 30% | インドシナ世界の歴史と社会についての基礎知識を理解した上で、授業内容に関する設問に対して説明できるかどうかを評価します。 |

レポート	30%	レポートの基本構成、字数、形式、参考文献等の基本的な条件を理解した上で、授業内容に関する課題に対してレポート作成できるかどうかを評価します。
平常点	40%	授業への参加・貢献度（意見の表明、他の学生と議論したり協調して学ぶ姿勢など）、リアクションペーパーの提出、受講態度等の条件を基準とします。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

評価の前提条件：出席率が70%に満たない者、課題を提出しない者等については、E判定とします。リアクションペーパーの内容が中身の無いものであった場合、その回の平常点が大きく減点されますので留意する必要があります。また、部活動や就職活動等で出席できない場合でも、「特別扱い」はしないので注意してください。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL（課題解決型学習）
- ✓ 反転授業（教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式）
- ✓ ディスカッション、ディベート
- ✓ グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- ✓ タブレット端末
- その他
- 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
- いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

1992年4月～1995年3月にかけて外務省・在カンボジア日本大使館に勤務し、広報政策や文化協力、国費留学生事業を担当しました。カンボジア政府や国際機関（国連カンボジア暫定統治機構、ユネスコ、その他）との折衝等の外交活動に従事し、特にアンコール遺跡国際調整委員会（ICC）の設立・運営に直接関与した実務経験を持っています。

実務経験に関連する授業内容

外交関連の文書等の作成に関与した経験を活かし、同書類の特徴や性質についての解説・講義を実施します。

テキスト・参考文献等

特定のテキストは用いません。
参考文献として、以下を適宜参照して下さい。

- ・明石康『カンボジアPKO日記～1991年12月-1993年9月～』岩波書店、2017年。
- ・池田維『カンボジア平和への道～証言 日本外交試練の5年間～』都市出版、1996年。
- ・今川幸雄『カンボジアと日本』連合出版、2000年。
- ・河野雅治『和平交渉～対カンボジア外交の証言～』岩波書店、1999年。
- ・桃木至朗その他編著『東南アジアを知る事典』平凡社、2008年。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

科目名：南アジア史／アジア地域史(4)B**担当教員：嘉藤 慎作**

履修年度：2023 学期：後期

開講曜日時限：金2

配当年次：2～4年次配当

科目ナンバー：LE-OH2-G206

登録者：DA1410admi 登録日時：2022-10-28 09:40:42 更新者：AD1417

更新日時：2023-01-09 22:19:04

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

本講義ではムスリム諸勢力が南アジア進出を開始した8世紀からイギリスによる本格的な植民地支配が始まる18世紀末までの南アジアの歴史について扱います。

現代の南アジアには、インドを中心として10億人を超えるヒンドゥー教徒が暮らしている一方で、およそ5億人とも言われるムスリムも居住しています。近年南アジア地域は目覚ましい経済的な発展を遂げており、国際社会の中でも日々その存在感を増しています。そうした中で南アジア地域に関わるニュースを目にする機会も多くなりましたが、そこではインド・パキスタン関係の緊張やインド国内でますます深まるヒンドゥー教徒とムスリムとの間の対立関係などが頻繁に取り沙汰されています。今後も世界の中で重要性を増していくであろう南アジア地域情勢を理解することは大いに意義があることだと考えられますが、そのためにイスラームの南アジアへの広まりおよびその在地社会に与えた影響を歴史的に学ぶことは不可欠になってきていると言えるでしょう。

このような関心に基づいて、本講義では、主として南アジアにおけるムスリム諸勢力の進出やイスラームの拡大の歴史的展開を追いつ、それが現代南アジア社会を形成する上でどのような影響をもたらしているのかを考察します。

科目目的

南アジア地域世界の形成においてイスラームやペルシア語といった外部からもたらされた要素が大きく影響したことを理解して、現代南アジアの多様性の淵源についての理解を深めることを目的とする。

到達目標

- ・南アジアにおけるイスラームの展開およびイスラームが社会に与えた影響について理解し、説明できるようになる。
- ・南アジアの特徴の一つである社会・文化的多様性について理解を深める。

授業計画と内容

- 第1回 イントロダクション/南アジアにおけるイスラーム
- 第2回 ムスリム諸勢力の南アジア進出
- 第3回 デリー・スルターン朝の時代
- 第4回 デリー・スルターン朝時代の経済と社会
- 第5回 デカンにおけるムスリム諸王国の展開
- 第6回 ムガル朝支配の確立～アクバルの治世まで～
- 第7回 ムガル朝の発展～ジャハーンギールとシャー・ジャハーンの時代～
- 第8回 ムガル朝の拡大と繁栄の曲がり角～アウラングゼーブ時代～
- 第9回 ムガル朝の対外関係
- 第10回 ムガル朝時代の経済
- 第11回 ムガル朝時代の文化・宗教
- 第12回 ムガル朝の衰退とマラーター同盟の興隆
- 第13回 イギリス植民地支配への移行
- 第14回 まとめ

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

毎回授業後にリアクション・ペーパーを提出してもらいます。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。

・毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	60% 記述式問題を課し、授業内容の理解度を問います。
レポート	0%
平常点	40% 授業への参加・貢献度、リアクション・ペーパーの記述内容を評価の基準とします。
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL（課題解決型学習）
- 反転授業（教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式）
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキストは指定しない。毎回配布するレジュメを利用する。

参考文献として以下の文献を挙げるので、適宜参照してください。

S・チャンドラ（著）、小名康之・長島弘（訳）『中世インドの歴史』山川出版社、1999年。

小谷汪之（編）『南アジア史2：中世・近世』世界歴史体系、山川出版社、2007年。

Wink, A., The Making of the Indo-Islamic World, c. 700-1800 CE, Cambridge: Cambridge University Press, 2020.

Eaton, R. M., India in the Persianate Age 1000-1765, London: Penguin Books, 2020.

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

科目名: イスラーム前近代史／アジア地域史(3)A

担当教員: 末野 孝典

履修年度: 2023 学期: 前期

開講曜日時限: 水2

配当年次: 2～4年次配当

科目ナンバー: LE-OH2-G207

登録者: DA1410admi 登録日時: 2022-10-28 09:40:42 更新者: gakubuadmin 更新日時: 2023-02-13 08:51:20

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

この授業では、前近代におけるイスラームの歴史をより深く理解することを目指します。前近代のイスラーム世界は時間的にも地理的にも極めて広大であるため、以下のような4つのトピックを設定して解説します。

(1) イスラームの誕生

まずはじめに、預言者ムハンマドに啓示が下される以前／以後のアラビア半島社会の歴史状況について確認し、ムハンマドが生涯をかけて築き上げたウンマ＝共同体が分裂して以降の政治的動乱からウマイヤ朝崩壊までの歴史を扱います。

(2) 学と知の継承

続いて、アッバース朝の時代（ここでは8世紀から10世紀末までを射程とする）において学と知がどのように形成されてきたのかについて説明します。言うまでもなく、イスラームに係わる知識が書物の形式で伝わるようになる以前は、口承によって知識が伝達されていたわけですが、そこには「口伝」と「書伝」のあいだにある複雑な緊張関係がありました。後代に知を伝達する手段として「書伝」が有力になった歴史のプロセスを辿りながら、政治的権威とカラーム、ファルサファといった学問の関わりについても取り上げます。

(3) スーフィズムの成立と拡大

ここでは、スーフィズム（アラビア語原文だとタサウウフ）がどのような歴史を歩んできたのかについて解説します。受講者にとってあまり馴染みのない分野だと思われるので、基本事項についても確認しますが、特にイスラーム思想史上、最大の師とも称されるイブン・アラビーとその後継者たちの神秘主義思想（存在一性論や完全人間論など）を解説することに重きを置きます。近年、世界的にも盛り上がりを見せている文字論についての考え方も紹介します。

(4) 辺境のイスラーム

最後のトピックでは、中東から西アフリカに舞台を移し、当該地域におけるイスラームの歴史的展開について説明します。具体的に言えば、サハラ沙漠以北と以南のヒト・モノ・カネをつなぐサハラ縦断交易を取り上げたり、この地域で歴史叙述が生まれた政治的動機についてなどを解説します。中東と異なる地域のイスラーム史を学ぶことで、比較の視座を養うことも目指します。

科目目的

イスラーム史を学ぶうえで欠かすことのできない史料に関する専門的な知識を身につけるとともに、歴史事象を考察するための視野を培うことを目的とします。

また4年次に執筆する卒業論文のためにテーマを探る手掛かりを附与することも目指します。

到達目標

1. 前近代のイスラーム世界の歴史的展開を大まかに説明できる。
2. イスラーム史を扱ううえでの史料性格について説明できる。
3. 前近代イスラーム史における研究テーマを先行研究を踏まえて見つけ出すことができる。
4. 自らが設定した研究テーマに対して史料や先行研究を踏まえながら、自らの見解を論じることができる。

授業計画と内容

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 イスラームの誕生①: イスラームの夜明け
- 第3回 イスラームの誕生②: ウンマの分裂と内乱
- 第4回 イスラームの誕生③: 政治的権威を求めて
- 第5回 学と知の継承①: タスニーフ運動
- 第6回 学と知の継承②: 翻訳運動とファルサファ
- 第7回 学と知の継承③: 異端審問とカラーム
- 第8回 スーフィズムの成立と拡大①: 禁欲主義から神秘主義へ
- 第9回 スーフィズムの成立と拡大②: イブン・アラビーとその後継者たち
- 第10回 スーフィズム成立と拡大③: 文字神秘主義
- 第11回 辺境のイスラーム①: サハラ縦断交易と諸王国の興隆
- 第12回 辺境のイスラーム②: 年代記ジャンルの成り立ち

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
授業終了後の課題提出
その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	0%
レポート	70% 学期末のレポート課題により、全体の到達度について評価します。なお字数は3000字程度を予定としています。
平常点	30% 授業への参加・貢献度、受講態度(意見の表明、他の学生と協調して学ぶ態度等)の状況を基準とします。
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

本講義の成績評価方法については初回の授業で詳しくアナウンスする予定です。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキストは使用しない。レジュメを適宜配布します。
ここでは、前近代のイスラーム史の大枠を知るうえで役立つ参考書を幾つか紹介しておきます。

- ・アルバート・ホーラーニー（湯川武・阿久津正幸訳）『アラブの人々の歴史』第三書館、2003年。
- ・井筒俊彦『イスラーム思想史』中央公論新社、2005年。
- ・小杉泰『イスラーム文明と国家の形成』京都大学出版会、2011年。
- ・菊地達也『イスラーム教「異端」と「正統」の思想史』講談社、2009年。
- ・佐藤次高『イスラームの国家と王権』岩波書店、2004年。
- ・ジョナサン・バーキー（野本晋・太田絵里奈訳）『イスラームの形成：宗教的アイデンティティと権威の変遷』慶應義塾大学出版会、2013年。

※より詳しい文献案内は授業内で行います。

オフィスアワー

その他特記事項

特になし

参考URL

備考

科目名: イスラーム近現代史／アジア地域史(3)B

担当教員: 鈴木 恵美

履修年度: 2023 学期: 後期

開講曜日時限: 火3

配当年次: 2～4年次配当

科目ナンバー: LE-OH2-G208

登録者: DA1410admi 登録日時: 2022-10-28 09:40:42 更新者: AA2229

更新日時: 2023-01-09 10:22:23

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

アラブ地域を中心に、中東地域の近代から現代までの歩みについて、地域の問題を中心に学習する。具体的には、オスマン帝国の解体から主権国家の成立、パレスチナ問題とイスラエル建国、イスラーム主義の台頭、アラブ動乱（「アラブの春」）などを取り上げる。最終的にはこれらの問題について、個別の問題としてではなく、一つの大きな流れのなかで理解できるようになることを目指す。

科目目的

中東地域を特殊な地域とせず、国際社会全体のなかでとらえること。
地域の問題について、自身の意見を述べることができるようになること。

到達目標

現在、中東地域で起きている問題について、歴史的な経緯を踏まえて体系的に理解すること。また、問題に対して、一方的な視点からではなく、多角的な視点から考察する能力を養うこと。授業で学ぶ知識と現代の問題を一つの流れの中でとらえること。

授業計画と内容

- 第1回 ガイダンス、西アジア地域の近代
- 第2回 オスマン帝国の弱体化と解体
- 第3回 政治的シオニズムとアラブ民族主義
- 第4回 イスラエル建国
- 第5回 中東戦争
- 第6回 オスロ合意
- 第7回 頓挫する和平とアブラハム合意
- 第8回 パレスチナ問題についてのまとめ
- 第9回 イスラーム主義の系譜
- 第10回 グローバル・ジハードの拡大
- 第11回 アラブ動乱（「アラブの春」）の背景
- 第12回 軍と政治
- 第13回 イスラーム主義か民主主義か
- 第14回 「アラブの春」のまとめ

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

- ・授業の前に高等学校世界史教科書（とくに近現代の部分および西アジア地域に関する部分）を読み直して予習しておくことが望ましい。
- ・現在の西アジア（中東）で起きている事件や報道について、新聞・テレビ・ネットニュースなどに注意し、同地域が抱える問題に関する知識を深め、授業に参加する。そこで疑問に感じた事項などを整理して、授業中あるいはコメントペーパーで質問をするなど積極的に参加する態度を取る。
- ・授業の後、その内容を復習し、次の授業に備える。

授業時間外の学修に必要な時間数／週

- ・毎週1回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	85% 学習した内容の理解度。
レポート	0%
平常点	15% 質問や感想などのフィードバックなどの積極性
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

コメントペーパーなどで授業内容についての質問を受け、次回授業で解説・補足説明を行なう。

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL（課題解決型学習）
- 反転授業（教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式）
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

在シリア日本国大使館一等書記官としてシリア、レバノンに勤務した。

実務経験に関連する授業内容

中東地域でのエピソードや現地で撮影した写真など、授業内で紹介する。

テキスト・参考文献等

テキストは特に設けない。参考文献は授業中に適宜指示する。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名： 朝鮮史／東洋近世史A**担当教員： 木村 拓**

履修年度：2023 学期：前期

開講曜日時限： 火2

配当年次：2～4年次配当

科目ナンバー：LE-OH2-G209

登録者：DA1410admi 登録日時：2022-10-28 09:40:42 更新者：XEA302

更新日時：2023-01-08 10:08:18

履修条件・関連科目等

東アジア近世史（東洋近世史B）を併せて履修することが望ましい。

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

現在、世界の状況は時々刻々とグローバル規模で変化を続けており、それは東アジアにも影響を及ぼさないわけにはいかないでしょう。日韓関係や日朝関係も直接・間接的にその影響を受けていることは間違いありません。我々としては、そうした変化を冷静に捉え、自ら考えながら隣国と付き合いしていくことが重要です。しかし一方で、しっかりと腰を据えて、朝鮮史を学び、それを通じて相手の考え方や、その背景にある歴史的に形成された文化を理解することも同じくらい重要です。また、実際に韓国・朝鮮の人々と付き合いしていくには、朝鮮史をある程度知らないわけにはいきません。本講義では、朝鮮史について、日本と関係の深いテーマを選択し、各テーマに関して可能な限り多角的に考えていきます。

科目目的

朝鮮と日本の間で、どのような歴史が展開し、その歴史がこれまでどのように研究・解釈されてきたのかを学びます。

到達目標

- 以下の点を大きな到達目標とします。
- ・朝鮮史研究と日本（史）との関連を理解する。
 - ・中近世の日朝関係史を多角的に理解する。

授業計画と内容

- 第1回 ガイダンス：朝鮮史の基本知識
- 第2回 近現代日朝関係史の概略
- 第3回 近代歴史学と朝鮮史1：戦前篇
- 第4回 近代歴史学と朝鮮史2：戦後篇
- 第5回 高麗時代史の概略：元との関係を中心に
- 第6回 元寇1：一国史的観点から世界史的観点へ
- 第7回 元寇2：日本社会に残したもの
- 第8回 朝鮮王朝と日本の関係史の概略
- 第9回 倭寇1：構成員に関する議論
- 第10回 倭寇2：さまざまな解釈
- 第11回 壬辰戦争（秀吉の朝鮮侵攻）1：経緯
- 第12回 壬辰戦争（秀吉の朝鮮侵攻）2：影響と記憶
- 第13回 朝鮮通信使1：概略
- 第14回 朝鮮通信使2：「鎖国」との関係

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業内で指定された参考文献を読んでおくこと。

授業時間外の学修に必要な時間数／週

- ・毎週1回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

- 中間試験 0%
- 期末試験 0%

レポート 70% 期末レポートに当たります。課題の内容については、授業中に説明します。
平常点 30% 授業への参加状況、毎回の小レポートの提出状況および内容について評価します。
その他 0%

成績評価の方法・基準(備考)

期末レポート及び小レポートの詳細については、授業開始後、授業で説明します。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)
- 反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- ✓ タブレット端末
- その他
- 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキストは、毎回レジュメ等を配布します。
参考文献は、授業で随時紹介します。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名： 中央アジア史／東洋近代史B**担当教員： 植田 暁**

履修年度：2023 学期：後期

開講曜日時限： 火1

配当年次：2～4年次配当

科目ナンバー：LE-OH2-G210

登録者：DA1410admi 登録日時：2022-10-28 09:40:43 更新者：AD1409

更新日時：2023-01-09 19:51:35

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

現在の旧ソ連領中央アジア諸国家に該当する中央アジア地域を歴史的に設定し、その近現代史の流れを辿ります。とくに、ロシア帝国・ソ連の統治下における政治的枠組と政策の変化だけでなく、それとの連関において当該地域の主要な住民であるテュルク系・イラン系ムスリムの諸民族の社会・文化の変容に注目しつつ、歴史の各段階における重要な局面について検討したいと思います。その上で、近現代史の推移を通してそれが現在の状況にどのようなつながっているかについても考えます。

科目目的

中央アジア（おもに旧ソ連領中央アジア）とはどのような特徴をもつ地域であり、とくに近現代においてどのような歴史を辿ってきたのか、という問題について具体的な知識を習得するとともに、歴史の内実を系統的に理解するための視点を養うことを目的とします。また、そのような歴史的背景を視野にいれつつ、現在の中央アジア地域の様相、とくに在住諸民族の文化・社会に対する理解を深めます。

到達目標

- ・中央アジア（おもに旧ソ連領中央アジア）がどのような特徴をもつ地域であり、とくに近現代においてどのような歴史を辿ってきたのか、という問題について具体的な知識を習得します。
- ・中央アジアの近現代における歴史の流れについて、各段階の具体的な状況を含め把握します。
- ・とくにロシア・ソ連の統治下における中央アジアの諸民族の社会・文化の状況とその変容の様相について理解を深めます。
- ・上記の作業を通じて、中央アジアの歴史の内実を系統的に理解するための視点を養います。
- ・また、近現代史に関する知識・視点を背景としつつ、現在の中央アジア地域の様相、とくに在住諸民族の社会・文化に対する理解を進めます。

授業計画と内容

基本的に講義形式で授業を行います。各回の授業内容は以下の通りです。

1. 授業計画、中央アジアという地域の設定
2. 現在の中央アジアの諸民族とその特徴、歴史展開の様態
3. ロシア帝国進出以前の中央アジア
4. ロシアの中央アジア進出とその背景
5. ロシアによる中央アジア統治政策
6. ロシア統治下のムスリム社会とその変容
7. ジャディード運動の勃興
8. ジャディードの思想と活動
9. トルキスタン・ナショナリズム
10. ロシア革命とソ連時代前期の中央アジア
11. ソ連時代後期の中央アジア
12. ソ連解体後の中央アジア
13. 中央アジアの文化とイスラーム
14. まとめ

※基本的に対面で授業を行う予定です。

※事情（合理的な理由）により対面での授業への出席が叶わない履修者がいる場合は、資料配信型などで対応致します。

※具体的な授業方法・段取等についてのお知らせは、manabaのコースニュースに掲載しますので、随時確認してください。

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと

- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

毎回の授業において、授業内容に関わる小課題を出しますので、manabaのレポート機能を用いて提出していただきます。

授業時間外の学修に必要な時間数／週

- ・毎週1回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	0%
レポート	30% 学期末の課題レポートにより、全体的な到達度について確認します。
平常点	70% 授業への参加状況、毎回の小課題の回答状況・内容について評価します。
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

- ・毎回、授業内容に関わる小課題を出します。次回にその課題に対する皆さんの回答を踏まえ、全体的な講評を行います。
- ・毎回の授業内容に関して皆さんから出た質問に対し、基本的にすべて回答を提示します。

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL（課題解決型学習）
反転授業（教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式）
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他

- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

クリッカー
タブレット端末
その他

- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

教科書は用いません。毎回の授業の際に資料を配布します。
参考文献については随時紹介していきますが、全体に関わるものとして以下を掲げます。

- ・小松久男編『中央ユーラシア史』山川出版社、2000年。
- ・小松久男等編『中央ユーラシアを知る事典』平凡社、2005年。
- ・宇山智彦編『中央アジアを知るための60章』明石書店、2003年。
- ・小松久男・荒川正晴・岡洋樹編『中央ユーラシア史研究入門』山川出版社、2018年。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名： 歴史地理学の方法／アジア地域史(2)A**担当教員： 植田 暁**

履修年度：2023 学期：前期

開講曜日時限： 火2

配当年次：2～4年次配当

科目ナンバー：LE-OH2-G211

登録者：DA1410admi 登録日時：2022-10-28 09:40:43 更新者：AD1409

更新日時：2023-01-09 19:51:52

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

これまであまり用いられてきていない図像史料(古地図・古写真)や衛星写真などを用いつつ、近年インターネット上で利用が可能になった地理情報システム(GIS)などのツールを用いながら、どのように歴史を研究していくか、歴史地理学的手法を学び、自ら古地図やデジタルツールを用いる事ができるようにする。上記を具体的に解説するために、GISやデジタル人文学の手法を用いた歴史地理学的手法の最新の研究事例を紹介する。

科目目的

史学と地理との関係および分析ツールとしての地理情報システムの役割を理解し、歴史研究に空間的分析を有効に用いることができるようになること。

到達目標

既公開の学術アーカイブのうち史学に関するものを使うことができるようになり、分析ツールとしての地理情報システムの活用方法を理解する。

授業計画と内容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 歴史における空間の役割
- 第3回 デジタル人文学の潮流と歴史学
- 第4回 歴史学における地理情報システム(GIS)の利用
- 第5回 古地図と古写真の利用：清朝期北京の景観復元を例に
- 第6回 データベースと空間情報：バーチャル京都による街並み復元を例に
- 第7回 中央アジア史における空間分析(1)：デジタルシルクロードを例に
- 第8回 中央アジア史における空間分析(2)：遊牧民定住とオアシス発展を例に
- 第9回 中央アジア史における空間分析(3)：中央アジア民族の成立を例に
- 第10回 インド史における空間分析：植民地期の社会変容を例に
- 第11回 東南アジア史における空間分析：ハノイの都市形成過程を例に
- 第12回 グローバルヒストリーと空間分析：中国史の事例を中心に
- 第13回 グローバルヒストリーと空間分析：東南アジア史およびインド史の事例を中心に
- 第14回 まとめ

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと

- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**授業時間外の学修に必要な時間数／週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

- 中間試験 0%
- 期末試験 0%
- レポート 40% 期末レポートの提出をもって評価する。

平常点 60% 授業に出席し、課題を提出することをもって評価する。
その他 0%

成績評価の方法・基準(備考)

毎回の授業出席(平常点30%)、授業後の課題(30%)、期末レポート(40%)により評価を行う。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- ✓ タブレット端末
その他
実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

毎回、授業の際にレジュメや関連資料を配布する。また、スマホもしくはタブレットPCがあれば持参することが望ましい。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名：環境史の方法／アジア地域史(2)B

担当教員：村松 弘一

履修年度：2023 学期：後期

開講曜日時限：木1

配当年次：2～4年次配当

科目ナンバー：LE-OH2-G212

登録者：DA1410admi 登録日時：2022-10-28 09:40:43 更新者：AD1451

更新日時：2023-01-03 02:31:22

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

人類の営みの歴史は、自然や環境と不可分の関係にあります。歴史上、人々は自然をどのようにとらえ、どのように利用してきたのでしょうか。また自然環境の変化にどのように対応してきたのでしょうか。本講義では、古代東アジア世界を中心に自然環境と人間との関わりの歴史について考えます。テーマは「気候変動と古代文明・古代帝国の盛衰～始皇帝の統一と三国志の時代の背景」「馬が語る古代東アジア世界史～馬の飼養と使用、厩牧システム」「池から見た古代東アジア～長安の都市水利と農業灌漑水利」「古代帝国の開発と救済～災害と疫病の東アジア」「水路でつながる北と南～「運河」と秦漢帝国」などを取り上げます。

科目目的

- ・人間社会とそれをとりまく環境の双方から歴史の変化の因果関係を理解することができる。
- ・東アジア地域の地理と歴史の概略を理解し、その他アジア地域や世界の環境問題を歴史的に理解し、比較することができる。

到達目標

- ・人間社会とそれをとりまく環境の双方から歴史の変化の因果関係を理解することができる。
- ・東アジア地域の地理と歴史の概略を理解し、その他アジア地域や世界の環境問題を歴史的に理解し、比較することができる。

授業計画と内容

- ・授業予定
 - 第1回 イントロダクションーこの授業で何を学ぶのか、評価の方法等ー
 - 第2回 東アジア地域の地理と自然環境
 - 第3回 気候変動と古代文明・古代帝国の盛衰①～始皇帝の天下統一と環境
 - 第4回 気候変動と古代文明・古代帝国の盛衰②～三国志の時代と環境
 - 第5回 馬が語る古代東アジア世界史①～馬の飼養と使用、秦漢帝国の厩牧システム
 - 第6回 馬が語る古代東アジア世界史②～東アジアの馬と国家
 - 第7回 池から見た古代東アジア①～秦の咸陽と漢の長安の都市水利
 - 第8回 池から見た古代東アジア②～「陂」と「塢」の東アジア
 - 第9回 古代帝国の開発と救済①～漢代の災害と救済
 - 第10回 古代帝国の開発と救済②～晋・杜預上疏が語る開発と水害
 - 第11回 水路でつながる北と南～「運河」と秦漢帝国
 - 第12回 プレゼンテーション①
 - 第13回 プレゼンテーション②
 - 第14回 全体のまとめと総理解
- ・原則対面形式で授業をおこないます。
 - ・授業内容は履修者のみなさんの質問に答えるために変動します。
 - ・授業で提示する資料はmanaba上に掲示します。
 - ・履修人数にもよりますが、レポートに関するプレゼンテーションをしてもらう予定です。

以上

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと

- ✓ 授業終了後の課題提出
- ✓ その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業時の配布資料、参考文献等を参照して、授業内容についての理解を深めてください。

また、インターネットなども活用し東アジア地域や日本、その他地域の自然環境や歴史問題に関する情報も検索して関心を広げるようにしてください。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	0%	
レポート	60%	・授業期間中に提示するレポート課題および関連するプレゼンテーションにより総合的に判断します。
平常点	40%	・毎回、授業後課題（授業内容に対する質問等）を提出する。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

授業時間内で講評・解説の時間を設ける

- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL（課題解決型学習）

反転授業（教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式）

ディスカッション、ディベート

グループワーク

- ✓ プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

クリッカー

タブレット端末

その他

- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
- いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

参考文献

(概論)

- ・吉澤誠一郎監修『論点・東洋史学』ミネルヴァ書房、2022年
- ・漢字文献情報処理研究会編『デジタル時代の中国学リファレンスマニュアル』好文出版、2021年
- ・岡本隆司編『中国経済史』名古屋大学出版会、2013年
- ・岡本隆司『世界史とつなげて学ぶ 中国全史』東洋経済新報社、2019年（単行本）
- ・鶴間和幸『秦漢帝国へのアプローチ』山川出版社、1996年
- ・鶴間和幸『中国の歴史 ファーストエンペラーの遺産』講談社学術文庫、2020年
- ・原 宗子『環境から解く古代中国』大修館、2009年
- ・妹尾達彦『グローバルヒストリー』中央大学出版部、2018年
- ・上田 信『森と緑の中国史』岩波書店、1999年

- ・上田 信『トラが語る中国史』山川出版、2002年
- ・飯島 渉『感染症の中国史』中公新書、2009年
- ・村松弘一・鶴間和幸編『馬が語る古代東アジア世界史』汲古書院、2018年
- ・村松弘一『中国古代環境史の研究』汲古書院、2016年
- ・丸山真史・菊地大樹編『家畜の考古学：古代アジアの東西交流』2022年
(辞典類)
- ・中国辞典編纂委員会『中国辞典』丸善出版、2017年
- ・横浜国立大学都市科学部『都市科学事典』春風社、2021年

テキストは指定しません。

オフィスアワー

その他特記事項

東洋史のみならず日本史、西洋史の学生の履修も歓迎です。

参考URL

備考

科目名：生活史・心性史の方法／東洋古代史A

担当教員： 莊 卓熾

履修年度：2023 学期：前期

開講曜日時限： 火5

配当年次：2～4年次配当

科目ナンバー：LE-OH2-G213

登録者：DA1410admi 登録日時：2022-10-28 09:40:43 更新者：AD1435

更新日時：2023-01-06 22:16:21

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

「生活史・心性史の方法」を中国古代史の舞台で実践するべく、本講義では古代の中国人の「こころ」が析出した知恵の結晶ともいべき、漢籍の古典を題材とする。古代中国の春秋・戦国時代には、「諸子百家」と呼ばれるさまざまな学派の思想家が、当時の社会状況をめぐって活発な議論を交わしていた。彼らの言動は生活体験からきた社会常識を示すものが多く、そこから生まれた諺の数々が後世に残り、中国のみならず日本にも言い伝えられてきた。これらの諺を正しく理解するためには、古代中国の歴史・地理・社会を総合的に把握しなければならない。例えば、「五十歩百歩」は本当に無意味な比較なのか？「杞(人)憂(天)」は本当に妄想が過ぎたか？後世からすると、奇想天外のように思えるものの、実はきちんとした理由がある。本講義は中国の古典に由来する諺を、当時の社会背景と合わせて再読し、古代中国人の日常生活を深く理解したうえで、新たな発見とともに諺の教訓を学ぶ。

科目目的

中国古代の文化史について、基本的な知識を習得することを目的とする。

到達目標

中国古代の心性史を理解することを通して、ひろく中国の文化一般に触れたときに、それを一通り理解できるようになることが授業の到達目標である。

授業計画と内容

1. ガイダンス
2. 中国研究の基礎知識
3. 中国史資料入門
4. 『詩経』と『楚辞』—中国最古の詩集
5. 『論語』—儒家の教え①
6. 『孟子』—儒家の教え②
7. 『老子』『莊子』—道家の教え
8. 『墨子』—墨家の教え
9. 『韓非子』—法家の教え
10. 『呂氏春秋』『淮南子』—雑家の教え
11. 春秋三伝—孔子の理念が託されている歴史書
12. 『戦国策』—遊説の士の言説
13. 『史記』『漢書』—中国史資料の原点
14. 総括

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	0%

レポート	70%	学期末に、授業内容と関連するレポートを課し、評価をつける。
平常点	30%	授業時の取り組み、特に毎回配布するリアクションペーパー（授業内容のまとめや理解度確認の項目を設定する）によって評価する。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

授業時間内で講評・解説の時間を設ける

- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL（課題解決型学習）

反転授業（教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式）

ディスカッション、ディベート

グループワーク

プレゼンテーション

実習、フィールドワーク

その他

- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

クリッカー

タブレット端末

その他

- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
- いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキストは中華書局の版本を使用する。また、授業時にプリントを配布する。

参考文献は授業時に適宜指示する。全体に関連する概説書として、新釈漢文大系（全120巻）のうち該当するものを参照された。

オフィスアワー

その他特記事項

- ・毎回リアクションペーパーを提出する（オンライン授業の場合は、manabaのレポート機能かアンケート機能を活用する）。
- ・受講者の状況、希望に応じて、授業の一部の内容や形式を変更することもある。

参考URL

備考

科目名： 東洋美術史B／東洋史特論(2)B

担当教員： 神田 惟

履修年度： 2023 学期： 後期

開講曜日時限： 金3

配当年次： 1～4年次配当

科目ナンバー： LE-HR1-G302

登録者： DA1410admi 登録日時： 2022-10-28 09:40:43 更新者： AD1162

更新日時： 2023-01-07 11:33:01

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- ✓ その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

アラビア語 (すべて日本語で解説しますので、必須ではありませんが、基本的な文法事項についての知識を習得していると、専門用語理解の助けになります。)

授業の概要

「東洋美術史B／東洋史特論(2)」は、いわゆる「イスラーム美術史」の通史の授業です。この授業では、ムスリムのために／ムスリムによって7世紀以降に主に西アジア(中東)で生み出された工芸品、挿絵入り写本・一枚絵、建築物についての知識を時系列順に習得することで、彼らの価値観を共有し、グローバル化の時代を生き抜くために必要な想像力や思考力を身につけることを目指します。考察の対象となる地域には、西アジアのほか、時代によっては、イベリア半島、北アフリカ、中央アジア、南アジアも含まれますので、高校レベルの世界史の通史の復習にも役立つでしょう。

授業キーワード：イスラーム、イスラム、西アジア、中東、近東、中近東、イベリア半島、北アフリカ、中央アジア、南インド宗教、歴史、文化、美術、言語、文字、グローバル化、アラビア語、ペルシア語、トルコ語、クルアーン、コーラン、ハディース

科目目的

イスラーム化以降の西アジア(中東)を中心とした地域の美術に関する基礎知識を身に付け、その背景にあるイスラームの教義や、西アジアの歴史・政治、西アジア以外の地域との文化的交流についての理解を深めることを目的とします。加えて、単に作品やその作り手・パトロンに関する知識を得るだけでなく、美術作品の見方を身につけることを目指します。

到達目標

イスラームが成立した7世紀以降、現代に至るまでの間に、西アジア(中東)を中心とする地域においてムスリムのために／ムスリムによって生み出された工芸品・写本絵画・建築の地域的・史的展開についての知識を習得し、各時代・地域の文化について、具体的な作品例を挙げながら説明できるようになることを目標とします。

授業計画と内容

- 第1回 イントロダクション：イスラームとは何か、「イスラーム美術」とは何か
- 第2回 ビザンティン・サーサーン文化の遺産とイスラーム美術の勃興・伝播：アラブ系王朝の広まり(622年-950年)
- 第3回 カリフ国鼎立・イラン系王朝成立期の文化(750年-1150年)
- 第4回 テュルク系王朝の西アジア・インド進出と「ムーン・フェイス」の伝播(1050年-1250年)
- 第5回 モンゴル系王朝の西進とイスラーム美術(1250年-1350年)①：イルハン朝期イランの美術
- 第6回 十字軍・国土回復運動時代の地中海世界の文化(1150年-1500年)
- 第7回 モンゴル系王朝の西進とイスラーム美術(1350年-1500年)②：ティムール朝期中央アジア・イランの美術
- 第8回 大航海時代とイスラーム美術(1500年-1800年)①：オスマン朝期地中海世界の美術
- 第9回 大航海時代とイスラーム美術(1500年-1800年)②：サファヴィー朝イランの美術
- 第10回 大航海時代とイスラーム美術(1500年-1800年)③：ムガル朝期インドの美術
- 第11回 近代化・西洋化の波とイスラーム美術の終焉?：1800年-現代
- 第12回 第2回～第11回講義のまとめ(通史の総復習)
- 第13回 日本におけるイスラーム美術コレクションの形成(1)
- 第14回 日本におけるイスラーム美術コレクションの形成(2)

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと

- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	0%	
レポート	30%	学期末のレポート(2400文字程度、30点満点)に基づく。レポートの内容については、初回授業時に指示する。
平常点	70%	第1回～第14回の授業時に配布されるコメントペーパーの質と量(5点x14)に基づく。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

単位取得のためには、「平常点」として換算されるコメントペーパーを10回以上提出し、かつ期末のレポートを提出することが必須です。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキスト：
使用しません。レジュメを配布します。
参考文献：
各回のレジュメに記載します。入門書としては、以下の書籍が挙げられます。
榎屋友子『すぐわかるイスラームの美術－建築・写本芸術・工芸』東京：東京美術、2009年。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名： 東洋考古学A／東洋史特論(3)A

担当教員： 長谷川 奏

履修年度： 2023 学期： 前期

開講曜日時限： 木5

配当年次： 1～4年次配当

科目ナンバー： LE-AR1-G303

登録者： DA1410admi 登録日時： 2022-10-28 09:40:44 更新者： AD1446

更新日時： 2023-01-11 18:29:21

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

本講義では『東洋考古学』の中で、特にイスラーム考古学に焦点を当てる。講義の始まりに際しては、「イスラーム」と「考古学」というキーワードを理解することから始める。次に、イスラームの始まりから、広大なイスラーム圏が形成されていく流れを、アラビア半島～東方イスラーム圏～西方イスラーム圏を見渡して、その歴史過程を概観する。その上で、イスラーム・イデオロギーと経済原理・相互扶助の関りを理解し、前身文明の知とイスラーム科学との関係を把握する。ここまで学習したところで、以下の後半部分の講義では、イスラームの住居・庭園・食卓・工芸・不思議ものなどがたり等を事例にしたトピック学習を行う。最後の講義のまとめに際しては、イスラーム世界が現代社会においてもアクティブな役割を担っていることに鑑みて、動き続ける現代社会に視線を置きつつ、文化の「発掘」と「保存」の問題を考えていく。

科目目的

イスラーム世界は、日本にとってはかつては遠い存在であったが、多文化社会に直面しているいま、イスラームへの真の理解が求められている現状がある。本講義は、歴史の時間軸を遡りながら、特に物質文化の観点から、その独自性を理解するための講座である。

到達目標

イスラームの独自性は、精神文化と物質文化の双方の側面から学ぶ必要があるが、本講義はまず、後者の物質文化の側面を、広く包括的に理解することから始める。そのためには、中東・北アフリカの自然環境や人々の営みのさまざまな点に関心をもっていくことが必要である。

授業計画と内容

1. はじめにー「イスラーム」と「考古学」をめぐってー
2. イスラームのはじまりーアラビア半島ー
3. イスラームの勢力拡大1ー東方イスラーム圏ー
4. イスラームの勢力拡大2ー西方イスラーム圏ー
5. イスラーム・イデオロギーと経済原理
6. イスラーム・イデオロギーと相互扶助
7. イスラームと科学1ー前身伝統の知の堆積ー
8. イスラームと科学2ー知の掘り起しと応用ー
9. 考古学トピック1ー住居のアーケオロジーー
10. 考古学トピック2ー庭園のアーケオロジーー
11. 考古学トピック3ー食卓のアーケオロジーー
12. 考古学トピック4ー工芸のアーケオロジーー
13. 考古学トピック5ー不思議もののがたりのアーケオロジーー
14. 総括・まとめ・到達度確認ー「発掘」と「保存」をめぐってー

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

参考文献の中から、授業テーマに関わるポイントを、あらかじめ目を通して触れておくことが薦められる。また配布したレジュメやノートには、講義で印象的に学んだ点を書き留め、インターネットや図書館での情報検索を通じて、理解度を高めていくと良いであろう。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	60%	講義で解説したポイントが十分に理解されているか、問いに対して適切な回答が文章化できているかをチェックする。
レポート	20%	課題に関して、十分な情報検索ができているか、引用文献の明示などができているかをチェックする。
平常点	20%	授業の出席率やリアクション・ペーパー等への対応をチェックする。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う

✓ その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

レポートの読後の感想など、適宜、授業時間内で述べる。

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL (課題解決型学習)
反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)

✓ ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

リアクション・ペーパーなどを利用して、授業テーマに関して、意見交換を行うことがある。

授業におけるICTの活用方法

クリッカー
タブレット端末
その他

✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

✓ はい
いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

- ①テキストは講義に際してレジュメを配布する。
- ②以下は主要な参考文献である。
 - ・アフマド・Y. アルハサン他著、多田博一他訳『イスラム技術の歴史』平凡社、1999。
 - ・伊東俊太郎『十二世紀ルネサンス』講談社、2006。
 - ・加藤博『イスラム世界の経済史』NTT出版、2005。
 - ・佐藤次高『イスラームの生活と技術』山川出版社、1999。
 - ・ジョナサン・ブルーム著、榎谷友子訳『世界の美術—イスラーム美術—』岩波書店、2009。
 - ・杉田英明『日本人の中東発見—逆遠近法のなかの比較文化史—』東京大学出版会、1995。
 - ・鈴木恵美編著『現代エジプトを知るための60章』明石書店、2012。
 - ・竹下政孝著『イスラームを知る四つの扉』ふねうま舎、2013。
 - ・長谷川奏『図説 地中海文明史の考古学—エジプト・物質文化研究の試み—』彩流社、2014。
 - ・深見奈緒子『世界のイスラーム建築』講談社、2005。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名：史料研究／東洋史特論(4)

担当教員：松浦 史明

履修年度：2023 学期：後期

開講曜日時限：木3

配当年次：1～4年次配当

科目ナンバー：LE-OH1-G307

登録者：DA1410admi 登録日時：2022-10-28 09:40:44 更新者：AC8308

更新日時：2022-12-22 22:03:38

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

歴史とは「これまでに起きたこと」であると同時に、「過去についてのおはなし」でもあります。過去という、とてつもなく膨大なデータ量をもつ情報群の中で、語り継ぐべきものは何か、語りうるものはどれか——すなわち、何が「歴史」となるのか——、誰がどのように判断しているのでしょうか。この授業では近代以前の東南アジア史を題材として、様々な歴史の資料を紹介し、歴史を語る際の資料の役割と限界を考えます。

科目目的

この科目は、学位授与の方針で示す「専門的学識」および「幅広い教養」を修得することを目的としています。

到達目標

この科目では、前近代東南アジア史を素材として、資料と史料の解釈をめぐる難しさと面白さを知り、歴史を学ぶ際の批判的かつ建設的な思考を養うことを目標とします。

授業計画と内容

- 第1回 ガイダンス、東南アジア史への招待
- 第2回 「過去」と「歴史」のあいだ
- 第3回 東南アジア史を考えるための資料
- 第4回 刻文史料①：東南アジアの刻文史料
- 第5回 刻文史料②：クメール刻文の世界
- 第6回 刻文史料③：チャンパー、ジャワ、ミャンマーの刻文
- 第7回 図像①：神仏はどのように描かれたか
- 第8回 漢籍①：中国から見た東南アジア
- 第9回 漢籍②：刻文史料との比較
- 第10回 図像②：遺跡に残る物語絵巻
- 第11回 考古資料①：痕跡から読み解く歴史
- 第12回 考古資料②：遺跡から発掘されたもの
- 第13回 建築から読み解く地域性
- 第14回 まとめと総括

※事前に予告したうえで、授業で取り扱う内容や順番を変更することがあります。

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

各回のテーマに関する参考文献を紹介しますので、可能な範囲で読んでみて下さい。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験、期末試験、レポート、平常点、その他)

- 中間試験 0%
- 期末試験 0%

レポート	60%	授業内容を踏まえたレポート・テーマの設定と、必要な情報を適切にまとめるスキル、まとめた情報を踏まえた説得的な意見の表明・主張ができているかどうかを評価します。
平常点	40%	リアクションペーパーの内容、受講態度（意見の表明、他の学生と協調して学ぶ態度・姿勢等）を基準とします。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

評価の前提条件：出席率が70%に満たない者、期末レポートを提出しない者については、E判定とします。
リアクションペーパーの内容が中身の少ないものであった場合、その回の平常点が大きく減点されますので留意してください。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

授業の冒頭で適宜、書いてもらったリアクションペーパーをいくつか取り上げ、応答する時間を設けます。

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL（課題解決型学習）
反転授業（教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式）
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他

- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

クリッカー
タブレット端末
その他

- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

<テキスト>
テキストは使用しません。各回の授業内容に関する資料を配布します。

<参考文献>
・桃木至朗ほか監修『東南アジアを知る事典』平凡社、2008年
その他の参考文献については、各回の配布資料などで随時紹介します。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名: アラビア語(1)A/アジア諸言語(1)(初級)A

担当教員: 松本 隆志

履修年度: 2023 学期: 前期

開講曜日時限: 月2

配当年次: 1・2年次担当

科目ナンバー: LE-OW1-G801

登録者: DA1410admi 登録日時: 2022-10-28 09:40:44 更新者: AC9091

更新日時: 2023-01-10 14:23:32

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

テキストを用いた講義形式です。本講義では正則アラビア語の文法の初歩を学んでいきます。あくまでも文法の授業であり、会話表現の授業ではないことにご注意ください。ほぼ毎回課題を出す予定であり、また必要に応じて小テストを実施することもあります。前期は特にアラビア語の名詞・形容詞・前置詞の用法と基本名詞文を学びます。

科目目的

中東・西アジアの歴史・社会・文化を学ぶ上で必須であるアラビア語文献の読解を可能とするために、正則アラビア語文法の初歩を修得することが本講義の目的です。

到達目標

アラビア語の基本名詞文(名詞・形容詞・前置詞などで構成される文)を理解できるようになる。

授業計画と内容

- 第01回 ガイダンス
- 第02回 1章 アラビア文字の書き方と発音/文字のつなげ方と発音記号
- 第03回 2章 非限定/限定 3章 格変化の基本
- 第04回 小テスト(1~3章)と解説
- 第05回 4章 基本名詞文
- 第06回 5章 性 6章 数
- 第07回 小テスト(4~6章)と解説
- 第08回 7章 指示詞/人称代名詞 8章 前置詞
- 第09回 9章 動詞 ليس と疑問詞 هل, أ
- 第10回 小テスト(7~9章)と解説
- 第11回 10章 形容詞による修飾とイダーファ表現
- 第12回 11章 名詞のまとめ
- 第13回 12章 形容詞のまとめ
- 第14回 総括

以上の授業計画は状況により変更となる可能性があります。

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

アラビア語の学習には予習・復習が不可欠です。テキストに目を通すことはもちろん、テキストに収録されている練習問題や授業で出される課題をしっかりとこなし、暗記事項を一つ一つ押さえていく地道な取り組みが求められます。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

- 中間試験 0%
- 期末試験 40% 前期の授業内容全体についての試験をおこないます。

レポート	0%
平常点	60% 毎回の授業への取り組みと課題から評価します。
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)
- 反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

(テキスト)
八木久美子, 青山弘之, イハブ・アハド・エベード, 『大学のアラビア語詳解文法』, 東京外国語大学出版会, 2013年.
テキストです。必ず入手してください。

(参考文献)
竹田敏之, 『ニューエクスプレスアラビア語』, 白水社, 2010年.
文法中心の本講義では扱わない会話表現について学べる参考書です。旅行や留学・仕事などでのアラビア語使用を想定している人はこの本で勉強するといいいでしょう。

オフィスアワー

その他特記事項

卒論でイスラーム史を専門にするつもり学生は、後期と合わせて履修することが望ましいです。
もちろん、単純にアラビア語の世界に興味がある学生も履修できます。
ただしアラビア語は非常に難解な言語です。講義を欠席することなく、予習復習を欠かさない覚悟と忍耐が必要です。
決して楽な科目ではないのでご注意ください。

参考URL

備考

科目名: アラビア語(1)B/アジア諸言語(1)(初級)B

担当教員: 松本 隆志

履修年度: 2023 学期: 後期

開講曜日時限: 月2

配当年次: 1・2年次担当

科目ナンバー: LE-OW1-G802

登録者: DA1410admi 登録日時: 2022-10-28 09:40:44 更新者: AC9091

更新日時: 2023-01-10 14:26:46

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

前期に引き続き、テキストを用いた講義形式で正則アラビア語の文法を学んでいきます。会話ではなく文法の授業です。ご注意ください。
ほぼ毎回宿題を出す予定です。また必要に応じて小テストを実施することもあります。後期はアラビア語の基本的な動詞の変化とその用法が中心となります。

科目目的

アラビア語史料の読解に不可欠な動詞の変化と用法に習熟すること。

到達目標

アラビア語動詞の諸変化と用法に習熟し、それらを用いたアラビア語文の作成と読解をできるようになること。

授業計画と内容

- 第01回 ガイダンス
- 第02回 14章 動詞の完了形、15章 完了形の応用
- 第03回 16章 未完了直説形の基礎、17章 未完了直接形の応用
- 第04回 小テスト(14~17章)と解説
- 第05回 18章 疑問詞、副詞
- 第06回 19章 未完了接続形・短形
- 第07回 20章 命令形
- 第08回 小テスト(18~20章)と解説
- 第09回 21章 動詞_は
- 第10回 22章 動詞の受動態、分詞、動名詞
- 第11回 小テスト(21~22章)と解説
- 第12回 29章 名詞節
- 第13回 30章 接続詞のまとめ
- 第14回 総括・まとめ

以上の授業計画は状況により変更となる可能性があります。

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

アラビア語の学習には予習・復習が不可欠です。テキストに目を通すことはもちろん、テキストに収録されている練習問題や授業で出される課題をしっかりとこなし、暗記事項を一つ一つ押さえていく地道な取り組みが求められます。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

- 中間試験 0%
- 期末試験 40% アラビア語動詞の運用について理解の程を問う試験をおこないます。
- レポート 0%

平常点 60% 毎回の授業への取り組みと課題を評価します。
その他 0%

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)
- 反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
- いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

(テキスト)

八木久美子, 青山弘之, イハブ・アハマト・エベード, 『大学のアラビア語詳解文法』, 東京外国語大学出版会, 2013年.
テキストです。必ず入手してください。

(参考文献)

竹田敏之, 『ニューエクスプレスアラビア語』, 白水社, 2010年.

文法中心の本講義では扱わない会話表現について学べる参考書です。旅行や留学・仕事などでのアラビア語使用を想定している人は、講義と合わせてこの本で勉強するといいいでしょう。

オフィスアワー

その他特記事項

卒論でイスラーム史を専門にするつもり of 学生は前期と合わせて履修することが望ましいです。

もちろん、単純にアラビア語に興味がある学生も履修できます。

ただし、アラビア語は非常に難解な言語であるため、欠席することなく積極的に予習復習に努めていく覚悟と忍耐が必要です。

特に後期はアラビア語動詞の諸変化を大量に暗記することになります。

前期を履修せずに受講する場合は、前期のシラバスを確認して名詞・形容詞・前置詞等について自分で学習した上で臨むようにしてください。

参考URL

備考

科目名: アラビア語(2)A/アジア諸言語(1)(上級)A

担当教員: 鈴木 恵美

履修年度: 2023 学期: 前期

開講曜日時限: 水4

配当年次: 1・2年次担当

科目ナンバー: LE-OW1-G803

登録者: DA1410admi 登録日時: 2022-10-28 09:40:45 更新者: AA2229

更新日時: 2023-01-09 09:41:18

履修条件・関連科目等

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- ✓ その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

アラビア語

授業の概要

授業はテキスト講読を中心に進めるが、文語での簡単な会話も学ぶ。
テキスト講読では、文法事項を確認しながら、履修者全員でアラビア語テキストを読み進める。テキストは授業の初回時に配布する。
履修者はアラビア語の辞書を入手する必要がある。辞書については初回の授業で指示する。
予習と復習は必須。習得度を高めるため、授業内で複数回小テストを実施する。

科目目的

アラビア語の辞書が引けるようになること。
平易な文章に母音符号をふり、正確な発音で音読できるようになること。

到達目標

探している単語を辞書で速やかに引けるようになること。平易な文章の意味を理解しながら、正確な発音でスムーズに音読できるようになること。アラビア語で自己紹介ができるようになること。

授業計画と内容

- 第1回 ガイダンス、辞書の引き方1
- 第2回 辞書の引き方の続き
- 第3回 テキスト講読1
- 第4回 テキスト講読2
- 第5回 テキスト講読3
- 第6回 テキスト講読4
- 第7回 中間まとめ
- 第8回 テキスト講読5
- 第9回 テキスト講読6
- 第10回 テキスト講読7
- 第11回 テキスト講読8
- 第12回 会話と作文1
- 第13回 会話と作文2
- 第14回 会話と作文3

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

- 中間試験 40% 小テストでの理解度
- 期末試験 0%

レポート	0%
平常点	60% 毎回の授業での理解度
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)
- 反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキストを配布する。以下の辞書を使用する。
Hans Wehr: A Dictionary of Modern Written Arabic: Forrth Edition.

オフィスアワー

その他特記事項

特になし

参考URL

備考

科目名: アラビア語(2)B/アジア諸言語(1)(上級)B

担当教員: 鈴木 恵美

履修年度: 2023 学期: 後期

開講曜日時限: 水4

配当年次: 1・2年次担当

科目ナンバー: LE-OW1-G804

登録者: DA1410admi 登録日時: 2022-10-28 09:40:45 更新者: AA2229

更新日時: 2023-01-09 09:45:44

履修条件・関連科目等

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- ✓ その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

アラビア語

授業の概要

アラビア語中級程度の文語テキストの講読を中心に進めるが、文語での簡単な会話も学ぶ。予習と復習は必須。習得度を高めるため、授業内で複数回小テストを実施する。

科目目的

アラビア語の辞書が引けるようになること。中級程度の文語アラビア語の文章が読めるようになること。簡単なアラビア語会話ができるようになること。

到達目標

付帯状況の表現を理解すること。
母音符号のない文章を、意味を理解しながら正確な発音で読めるようになること。
簡単なアラビア語会話ができるようになること。

授業計画と内容

- 第1回 これまでの文法の復習
- 第2回 テキスト講読1
- 第3回 テキスト講読2
- 第4回 テキスト講読3
- 第5回 テキスト講読4
- 第6回 テキスト講読5
- 第7回 中間まとめ
- 第8回 テキスト講読6
- 第9回 テキスト講読7
- 第10回 テキスト講読8
- 第11回 会話と作文
- 第12回 会話と作文
- 第13回 会話と作文
- 第14回 会話と作文

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験 40% 小テストの理解度

期末試験	0%
レポート	0%
平常点	60% 毎回の授業の理解度
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)
- 反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキストを事前に配布する。以下の辞書を使用する。
Hans Wehr : A Dictionary of Modern Written Arabic: Forrth Edition.

オフィスアワー

その他特記事項

特になし

参考URL

備考

科目名: アジア諸言語(1)A/アジア諸言語(2)(初級)A

担当教員: 伊澤 敦子

履修年度: 2023 学期: 前期

開講曜日時限: 木2

配当年次: 1・2年次配当

科目ナンバー: LE-OW1-G805

登録者: DA1410admi 登録日時: 2022-10-28 09:40:45 更新者: AC9479

更新日時: 2022-11-02 06:03:41

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

サンスクリットは一般に、仏典の言語として知られているが、インドやその周辺地域の文化のルーツを探る上で不可欠な言語である。系統としては、印欧語族に属し、西欧諸言語や古代ペルシャ語などは親族関係にある。本講座では、学生はサンスクリット文法の基礎を学ぶ。特に前期では文字の読み書きから始めて、最終的に名詞・形容詞の格変化になじんでもらう。基本的には文法書に従って説明するが、必要な場合は補助資料を配布し、補足説明を行う。受講生にとっては全てが初めての事柄であり、理解することは容易ではないので、臆せず質問してほしい。

科目目的

サンスクリット文法の習得は、古代インドの文献を読み解くための基礎となるだけでなく、印欧語の元々の様相を探るためのよすがとなる。つまり、英語やドイツ語などの古い形とつながりがあるのである。

到達目標

サンスクリットに特有の連声の規則と、名詞・形容詞の格変化について習得し、簡単な文章を訳すことが出来るようになる。

授業計画と内容

1. イントロダクション、字母の説明
2. 字母の発音、文字の説明
3. 音論、名詞・形容詞について
4. aで終わる名詞
5. āで終わる名詞
6. i およびuで終わる名詞
7. ī およびūで終わる名詞
8. rで終わる名詞
9. as, is, usで終わる名詞
10. r, atで終わる名詞
11. vat および matで終わる名詞
12. an, man, vanで終わる名詞
13. その他の子音で終わる名詞
14. 総括・まとめ

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと

- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

文法書の中の練習題の文章を訳し、次回の授業で発表する。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

- | | | |
|------|-----|--|
| 中間試験 | 0% | |
| 期末試験 | 50% | 筆記試験を実施する。いくつかのサンスクリット文を和訳する。その際、各単語の意味、性、数、格をも記入する。これらによって、文章レベルだけでなく単語レベルにおいても正確に理解できているかがわかる。 |

レポート	0%	
平常点	40%	毎回授業の終わりに練習題の文章をいくつか解いて提出する。これをもって出席と見なされる。
その他	10%	次回の授業までに練習題をいくつか課題として出す。

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)
反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
- ✓ その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

課題 (復習) を次回の授業内で発表する。必要に応じて黒板に記入する。

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
タブレット端末
その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

使用テキスト：サンスクリット語初等文法、J. ゴンダ著、辻直四郎 校閲、鎧淳 訳、春秋社、2001、東京
辞書やその他の参考書については授業の中で紹介する。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名: アジア諸言語(1)B/アジア諸言語(2)(初級)B

担当教員: 伊澤 敦子

履修年度: 2023 学期: 後期

開講曜日時限: 木2

配当年次: 1・2年次配当

科目ナンバー: LE-OW1-G806

登録者: DA1410admi 登録日時: 2022-10-28 09:40:45 更新者: AC9479

更新日時: 2022-11-02 06:06:08

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

サンスクリットは名詞の格変化や動詞の語尾変化など古い言語形態をもっともよく保持している言語である。単語の1つ1つがパズルのピースのようなもので、それぞれのピースが持っている情報によりぴったり合わせることができると、そこに1つの絵(文)が浮かび上がる。学生はそのパズルを組み立てる為のノウハウを習得する。

科目目的

前期に習得した名詞・形容詞に加え動詞について学ぶことで、サンスクリットの全体像をつかむ。この言語の複雑さに慣れることは、他の言語、例えばギリシャ語やロシア語などの複雑な言語を習得するうえで大いに助けになる。

到達目標

代名詞の格変化、動詞の語尾変化について習得し、これらを織り交ぜた少し複雑な文章を訳すことが出来るようになる。

授業計画と内容

1. 前期の復習
2. 比較法
3. 人称代名詞、指示代名詞
4. 関係代名詞
5. 数詞
6. 動詞について
7. 第1種活用動詞 第1類
8. 第1種活用動詞 第4, 6, 10類
9. 第2種活用動詞 第2類
10. 第2種活用動詞 第3類
11. 第2種活用動詞 第5, 7類
12. 第2種活用動詞 第8, 9類
13. 名詞の格と数、動詞の時制と法
14. 総括・まとめ

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと

- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

文法書の中の練習題の文章を訳し、次回の授業で発表する。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	50%	筆記試験を実施する。いくつかのサンスクリット文を和訳する。その際、各単語の意味、性、数、格をも記入する。これらによって、文章レベルだけでなく単語レベルにおいても正確に理解できているかがわかる。
レポート	0%	
平常点	40%	毎回授業の終わりに練習題の文章をいくつか解いて提出する。これをもって出席と見なされる。

その他 10% 次回の授業までに練習題をいくつか課題として出す。

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)
- 反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- ✓ その他
- 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

課題 (復習) を次回の授業内で発表する。必要に応じて黒板に記入する。

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

使用テキスト：サンスクリット語初等文法、J. ゴンダ著、辻直四郎 校閲、鎧淳 訳、春秋社、2001、東京
辞書やその他の参考書については授業の中で紹介する。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名: アジア諸言語(2)A

担当教員: フロレンティナ エリカ ア
ユニングティアス

履修年度: 2023 学期: 前期

開講曜日時限: 金4

配当年次: 1・2年次配当

科目ナンバー: LE-OW1-G807

登録者: DA1410admi 登録日時: 2022-10-28 09:40:45 更新者: AD1271

更新日時: 2023-01-09 20:20:28

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

初心者向けのインドネシア語のクラス。インドネシア語の基礎的な文法をしっかりと学んでいく。基本的な文の構造などの役割の理解が主な目標である。簡単な自己紹介、時間、曜日、前置詞などを使う表現、そして形容詞や比較表現などを紹介していく。

それだけでなく、インドネシアについての理解を深めるために、写真や動画等を用いて文化、生活、宗教などについて適宜紹介していく。言語を通して、インドネシアの暮らしや文化に触れましょう。

授業中に、ペアワーク、グループワークやロールプレイングを行い、宿題や課題も出す。

科目目的

- 1) 文の基本構造を理解する
- 2) 決まり文句を習得する
- 3) 簡単な日常会話ができる
- 4) 既習語彙を用いて、短文を理解できる
- 5) 自習の習慣を身につける

到達目標

1. 自己紹介ができる。
2. 方向を尋ねたり、値段を聞いたりするなど簡単な日常会話ができる。
3. 正しい文法や表現を使い、短い作文を作成することができる。

授業計画と内容

1. イントロダクション、シラバス確認、インドネシア語の特徴、インドネシアの紹介
2. 挨拶、自己紹介
3. 指示代名詞、名詞文（否定文、疑問文を含む）
4. 人称代名詞、所有格
5. 前置詞、方向、存在表現
6. 数詞、数量の表現
7. 値段
8. 中間テスト
9. 曜日と日付の表現
10. 時間と時刻
11. 形容詞
12. 比較表現
13. インドネシア語の言い回し
14. 総括

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

予習・復習時間を確保する。
予習復習時間とも毎週授業時間と同等の時間が必要となる。
授業開始直後に小テストを行う場合がありますので、必ず復習・予習して来ることが。
受講者は、教員の指示に従って復習を行ったうえで、次回の授業に臨むことを期待する。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。

・毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	30%	授業期間中に行われる筆記試験
期末試験	40%	学期末に行われる筆記試験
レポート	0%	
平常点	15%	宿題と小テスト
その他	15%	出席率及び授業への積極的な取り組みを含む授業参加

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL（課題解決型学習）
反転授業（教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式）
ディスカッション、ディベート
- ✓ グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
タブレット端末
- ✓ その他
実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

教科書：
著者名/Authors : Florentina Erika
書名/Title : 『インドネシア語の基礎 BAHASA INDONESIA TINGKAT DASAR』
出版社・出版年/Publisher.Year : KANISIUS 2021
ISBN : 978-9792169287

参考書：
著者名/Authors : 川村よし子、フロレンティナ エリカ
書名/Title : 『日インドネシア英・インドネシア日英辞典』
出版社・出版年/Publisher.Year : 三修社2017
ISBN-10 : 4384058780
ISBN-13 : 978-4384058789

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名: アジア諸言語(2)B

担当教員: フロレンティナ エリカ ア
ユニングティアス

履修年度: 2023 学期: 後期

開講曜日時限: 金4

配当年次: 1・2年次配当

科目ナンバー: LE-OW1-G808

登録者: DA1410admi 登録日時: 2022-10-28 09:40:46 更新者: AD1271

更新日時: 2023-01-09 20:32:37

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

春学期に学んだ基礎に加えて、動詞を中心に紹介する。接辞、接尾辞、命令等を学習し、さらに表現を広げていく。聴き取り能力、単語力、表現力を向上させ、実際に簡単な日常会話の中で使用できるようになり、インドネシア語が正しく話せる・書けることはこの授業の目標である。

最後に、インドネシアのこと(文化、食べ物、観光地など)を調べて決められたテーマに基づき、今まで習った単語や表現を使い、簡単なインドネシア語でプレゼンテーションをしてもらう。言語を通して、インドネシアについての理解を深めましょう。

授業では、ペアワーク、グループワーク、ロールプレイングなどを行う。

科目目的

- 1) 文の基本構造を理解する。
- 2) 自分の意思を相手に伝えられる。
- 3) 辞書を用いて、文に相応しい意味を判断できる。
- 4) 相手が言ったことを聞き取れ、返事ができる。
- 5) 自分の意見や考え方を言葉にできる。
- 6) 自習の習慣を身につける。

到達目標

1. 簡単な日常会話ができる。自分の意志を相手に伝えられる。相手の文章が聞き取れ、それに対して答えることができる。また、自分の意見や考え方が述べられる。
2. レストランなどでの予約、飲み物や食べ物の注文。パンフレットを使って、ホテルや旅行のプランを選ぶ、チケットなどを買うなどのようなロールプレイを行い、様々な単語や表現を身につける。
3. 春学期の授業で学習した名詞、数字、時間、簡単な副詞や形容詞などに加えて、基語動詞、ber-動詞、me-動詞、me-kan動詞、受動態や助動詞などを学習し会話の中で使えるようになる。

授業計画と内容

1. イントロダクション、シラバス確認、春学期の学習内容を復習
2. 動詞1 (基語動詞、ber動詞)
3. 動詞2 (meN動詞)
4. 助動詞
5. 受動態(1人称と2人称)
6. 受動態(3人称)
7. 中間試験
8. Yang用法(受動態と能動態)
9. 受動態とYang用法の演習
10. 命令文
11. 動詞3 (meN~kan)
12. 最終課題のテーマの説明
13. レビュー
13. プレゼンテーション&ディスカッション
14. 総括

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

予習・復習時間を確保する。
予習復習時間とも毎週授業時間と同等の時間が必要となる。
毎回、小テストまたは作文等宿題の指示を出すので、教員の指示にしたがって、受講後に復習等を行ってください。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	30%	授業期間中に行われる筆記試験
期末試験	40%	学期末に行われる総括
レポート	0%	
平常点	15%	宿題や小テスト
その他	15%	出席率及び最終課題

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- ✓ グループワーク
- ✓ プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- ✓ その他
- 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
- いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

教科書：
著者名/Authors : Florentina Erika
書名/Title : 『インドネシア語の基礎 BAHASA INDONESIA TINGKAT DASAR』
出版社・出版年/Publisher, Year : KANISIUS 2021
ISBN : 978-9792169287

推薦参考書：
著者名/Authors : 川村よし子、フロレンティナ エリカ
書名/Title : 『日インドネシア英・インドネシア日英辞典』

出版社・出版年/Publisher.Year : 三修社2017
ISBN-10 : 4384058780
ISBN-13 : 978-4384058789

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考
